

Canon

EOS *Kiss*
X8i

EOS Kiss X8i (W)



カメラ

Wi-Fi/NFC機能

使用説明書（基本編）

本書は「基本編」です。
より詳しい内容については、カメラ使用説明書CD-ROMに
収録されている使用説明書を参照してください。

J

Canon

EOS *Kiss*
X8i

EOS Kiss X8i (W)

カメラ使用説明書（基本編）

カメラ使用説明書（基本編）では、簡単な撮影ができるまでの基本的な操作方法や機能を説明しています。

はじめに

EOS Kiss X8iは、有効画素数約2420万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 6、高精度・高速19点AF（クロス測距点：最大19点）、最高約5.0コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能、Wi-Fi/NFC機能を搭載した、デジタル一眼レフカメラです。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（16～18ページ）、および『取り扱い上のご注意』（19～21ページ）をお読みください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
(アイカップ、
ボディキャップ付き)



電池
バッテリーパック
LP-E17
(保護カバー付き)



充電器
バッテリーチャージャー
LC-E17



ワイドストラップ



インターフェースケーブル

- ※ 使用説明書とCD-ROMについては、次ページを参照してください。
- ※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- ※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
- ※ 付属品は、なくさないように注意してください。

使用説明書と CD-ROM について

使用説明書は、「冊子」と「電子マニュアル」（PDFファイル／CD-ROMに収録）で構成されています。冊子は「基本編」です。より詳しい内容は、カメラ使用説明書CD-ROMを参照してください。



カメラ・Wi-Fi/NFC機能
使用説明書（基本編）
（本書）



カメラ使用説明書CD-ROM

下記の使用説明書（PDFファイル）が収録されています。

- ・カメラ使用説明書
- ・Wi-Fi/NFC機能 使用説明書
- ・クイックガイド

カメラ使用説明書CD-ROMの見かたについては、190～191ページを参照してください。



EOS DIGITAL Solution Disk（ソフトウェアCD-ROM）

画像編集などのソフトウェアとソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）が収録されています。

ソフトウェアの概要やパソコンへのインストール方法については、194～195ページを参照してください。

ソフトウェア使用説明書の見かたについては、196ページを参照してください。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（p.55）。

- ・ SDメモリーカード
- ・ SDHCメモリーカード*
- ・ SDXCメモリーカード*

* UHS-Iカード対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、大容量で、SDスピードクラス6「CLASS6」以上のカードを使用してください。

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、さらに高速なカードが必要です。
- カードの書き込み / 読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

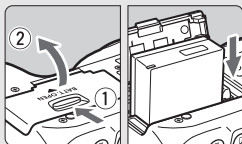


本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

※ 画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

すぐ撮影するには

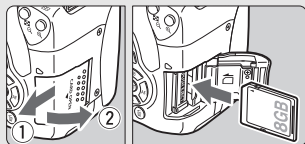
1



電池（バッテリー）を入れる
(p.32)

- 電池の充電方法については 30 ページを参照してください。

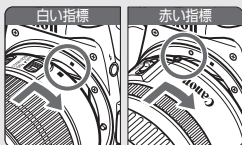
2



カードを入れる (p.33)

- カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

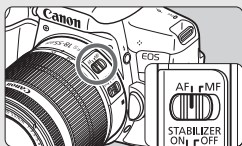
3



レンズを取り付ける (p.41)

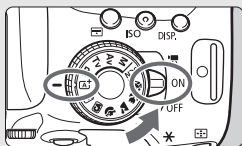
- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせて取り付けます。

4



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする (p.41)

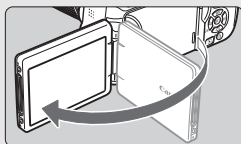
5



電源スイッチを〈ON〉にし、
〈A+〉（シーンインテリジェントオート）にする (p.62)

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

6



液晶モニターを開いてセットする (p.35)

- 液晶モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、38ページを参照してください。

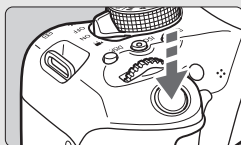
7



ピントを合わせる (p.46)

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
- 必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8



撮影する (p.46)

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



撮影した画像を確認する

- 撮影した画像が液晶モニターに2秒間表示されます。
- <▶> ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (p.90)。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』(p.131)を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』(p.90)を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』(p.166)を参照してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

-  : 電子ダイヤルを示しています。
-     :  十字キーの上下左右ボタンを示しています。
-  : 設定ボタンを示しています。
-     : 操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU : **MENU** ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用 : ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン (p.26) 限定で利用できる機能であることを示しています。

(p.**) : 参照ページを示しています。

 : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

 : 補足説明や補足事項を記載しています。

 : 上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

 : 困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています (p.36)。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STMレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

	はじめに	4
1	撮影前の準備と操作の基本	29
2	かんたん撮影と画像確認	61
3	AF／ドライブの設定	93
4	画像に関する設定	105
5	撮影目的にあわせた応用撮影	121
6	液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	131
7	動画を撮影する	145
8	知っていると便利な機能	153
9	画像の再生	159
10	資料	167
11	使用説明書CD-ROMの見かた／パソコンに画像を取り込む	189

目 次

はじめに 4

カメラと主な付属品	5
使用説明書と CD-ROM について	6
使用できるカードについて	7
すぐ撮影するには	8
本使用説明書の表記について	10
章目次	11
目 次	12
安全上のご注意	16
取り扱い上のご注意	19
各部の名称	22

1 撮影前の準備と操作の基本 29

電池を充電する	30
電池を入れる／取り出す	32
カードを入れる／取り出す	33
液晶モニターを使う	35
電源を入れる	36
日付／時刻／エリアを設定する	38
表示言語を選ぶ	40
レンズを取り付ける／取り外す	41
レンズの手ブレ補正機能について	44
撮影の基本操作	45
Q 撮影機能のクイック設定	47
MENU メニュー機能の操作と設定	49
 画面にタッチして操作する	52
カードを初期化する	55
液晶モニターの表示切り換え	57
 グリッドを表示する	58
機能ガイドについて	59

2 かんたん撮影と画像確認 61

 全自動で撮る (シーンインテリジェントオート).....	62
 全自動を使いこなす (シーンインテリジェントオート).....	65
 ストロボが使えない場所で写す.....	67
 クリエイティブオートで撮る.....	68
 人物を写す.....	72
 風景を写す.....	73
 花や小物を大きく写す.....	74
 動きのあるものを写す.....	75
SCN: スペシャルシーンモードで撮る.....	76
 子供を写す.....	77
 料理を写す.....	78
 キャンドルライトと人物を写す.....	79
 夜景と人物を写す (三脚を使う).....	80
 夜景を写す (手持ち撮影).....	81
 逆光シーンを写す.....	82
 クイック設定について.....	84
雰囲気を選んで撮影する.....	86
明かりや状況にあわせて撮影する.....	88
 画像を再生する.....	90

3 AF / ドライブの設定 93

AF: ピント合わせの動作を変える (AF 動作).....	94
 測距エリアと AF フレームを選択する.....	97
測距エリア選択モードの内容.....	100
MF: 手動でピントを合わせる (マニュアルフォーカス).....	101
 ドライブモードの選択.....	102
 セルフタイマー撮影.....	103

4 画像に関する設定 105

記録画質を設定する	106
ISO : 明るさに応じて感度を変える (ISO 感度)	108
 ピクチャースタイルを選択する	109
 ピクチャースタイルを調整する	111
WB : 明かりにあわせて撮影する (ホワイトバランス)	114
明るさ・コントラストを自動補正する (オートライティングオプティマイザ)	115
ノイズ低減機能を設定する	116
レンズの周辺光量と収差を補正する	118
フリッカーの影響を低減する	120

5 撮影目的にあわせた応用撮影 121

P : プログラム AE 撮影 (プログラム AE)	122
Tv : 被写体の動きを表現する (シャッター優先 AE)	123
Av : ピントの合う範囲を変える (絞り優先 AE)	124
M : 露出を自分で決めて撮る (マニュアル露出)	125
 明るさの測り方を変える (測光モード)	126
自分の好みに明るさを調整する (露出補正)	127
明るさを自動的に変えて撮る (AEB 撮影)	128
 明るさを固定して撮る (AE ロック撮影)	129
 内蔵ストロボを使って撮る	130

6 液晶モニターを見ながら撮影する (ライブビュー撮影) 131

 液晶モニターを見ながら撮影する	132
 フィルター効果を付けて撮影する	135
AF でピントを合わせる (AF 方式)	137
 タッチシャッターで撮影する	141
MF: 手動でピントを合わせる	142

7 動画を撮影する 145

🎥 動画を撮影する	146
自動露出で撮影する	146
マニュアル露出で撮影する	147
動画記録サイズの設定	150

8 知っていると便利な機能 153

普段使う上で便利な機能	154
電子音が鳴らないようにする	154
撮影直後の画像表示時間を設定する	154
電源が切れるまでの時間を設定する	155
液晶モニターの消灯 / 点灯の設定	155
カメラの機能設定を初期状態に戻す	156

9 画像の再生 159

▶ 見たい画像を素早く探す	160
🔍 / 🔍 拡大して見る	161
👆 画面にタッチして再生する	162
🎥 動画を再生する	164
🗑️ 消去する	166

10 資料 167

各撮影モードで設定できる機能一覧	168
故障かな?と思ったら	174
エラー表示	188

11 使用説明書 CD-ROM の見かた／ パソコンに画像を取り込む 189

カメラ使用説明書 CD-ROM の見かた	190
パソコンに画像を取り込む	192
ソフトウェアの概要	194
ソフトウェアのインストール	195
ソフトウェアの使用説明書	196

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。**故障、不具合、破損の際は、弊社修理受付窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。**



警告

下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
 - ・ 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
 - ・ 電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
 - ・ 電池の＋を逆に入れること。
 - ・ 充電可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
 - ・ カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- ストロボを目に近づけて発光しないでください。視力障害を起こす危険性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒に保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
 - ・ 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
 - ・ 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
 - ・ 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
 - ・ 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
 - ・ 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
 - ・ 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の際は、保護者が正しい使用方法を十分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。



注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性及び物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- 同梱のCD-ROMをCD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しないでください。音楽用CDプレーヤーで使用した場合は、スピーカーなどを破損する恐れがあります。またヘッドフォンなどをご使用になる場合は、大音量により耳に傷害を負う恐れがあります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などで内蔵ストロボやミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のプロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行くと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとそこに記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

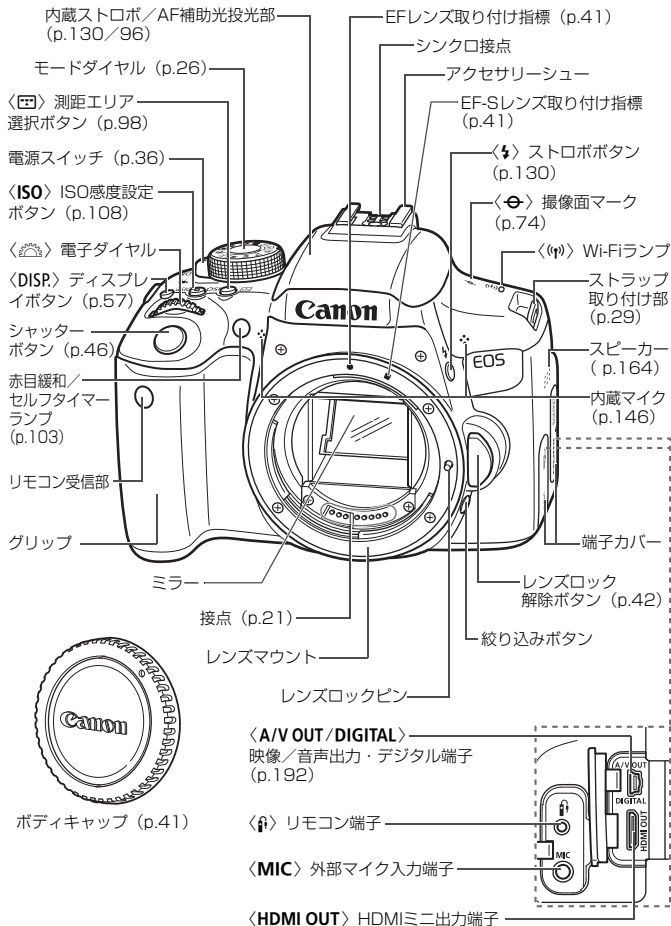
撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

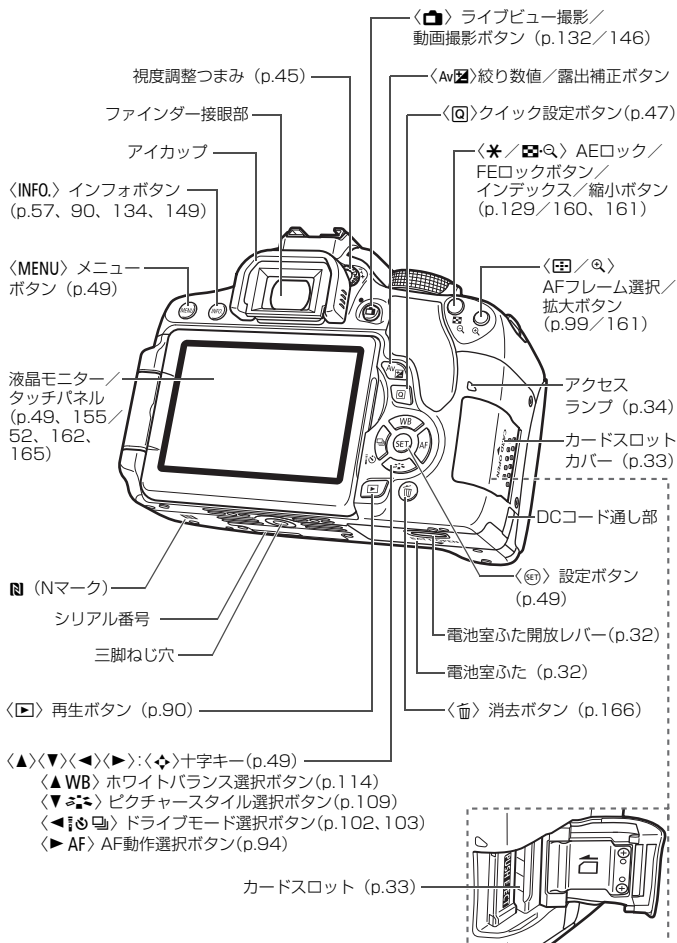
レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

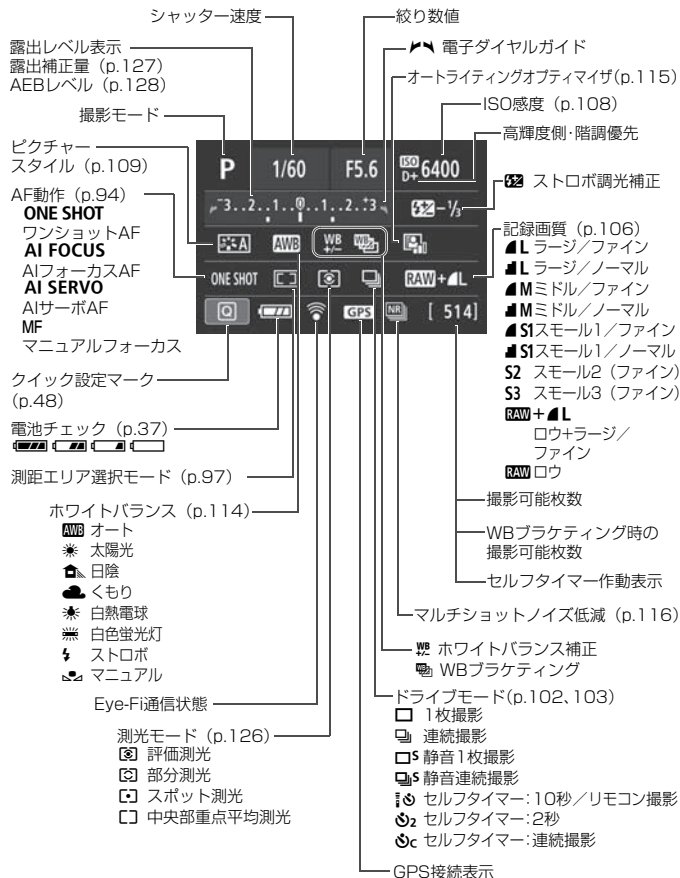


各部の名称



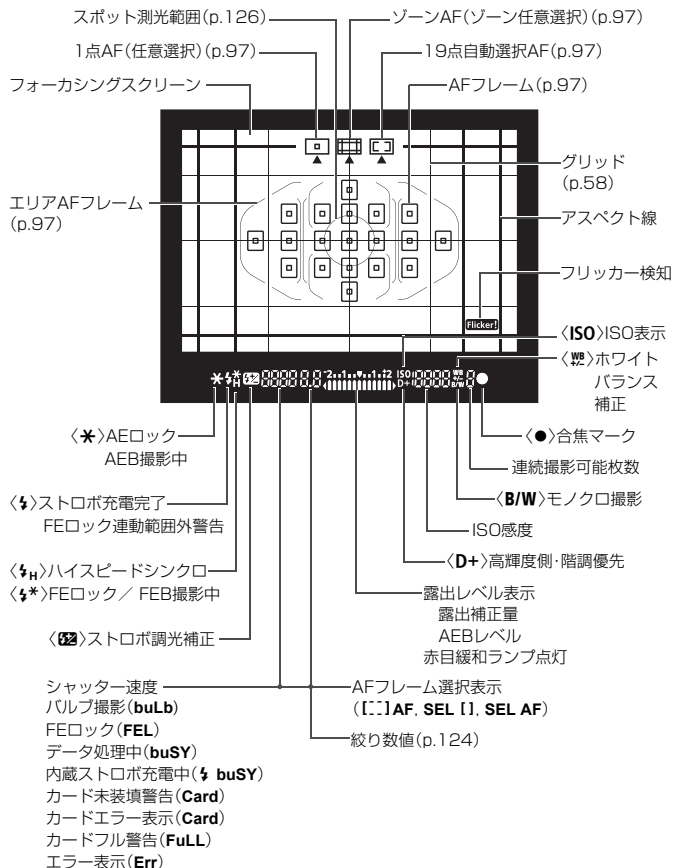


撮影機能の設定状態 (応用撮影ゾーン時/p.26)



設定に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示



設定に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンがあります。

応用撮影ゾーン

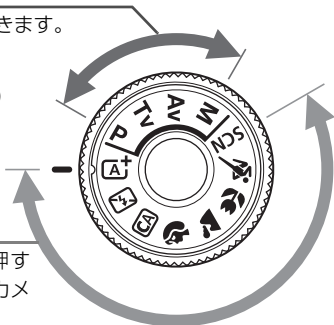
思い通りのさまざまな撮影ができます。

- P** : プログラムAE (p.122)
- Tv** : シャッター優先AE (p.123)
- Av** : 絞り優先AE (p.124)
- M** : マニュアル露出 (p.125)

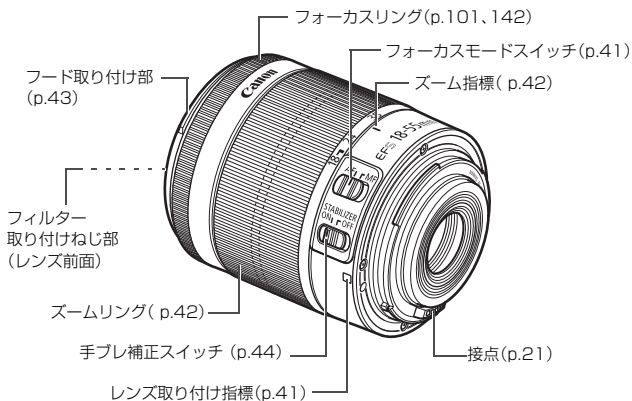
かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

-  **A+**: シーンインテリジェントオート (p.62)
-  **[Flash Off]**: ストロボ発光禁止 (p.67)
-  **CA**: クリエイティブオート (p.68)
-  **[Portrait]**: ポートレート (p.72)
-  **[Landscape]**: 風景 (p.73)
-  **[Close-up]**: クローズアップ (p.74)
-  **[Sports]**: スポーツ (p.75)
- SCN**: スペシャルシーン (p.76)
 -  : キッズ (p.77)
 -  : 料理 (p.78)
 -  : キャンドルライト (p.79)
 -  : 夜景ポートレート (p.80)
 -  : 手持ち夜景 (p.81)
 -  : HDR逆光補正 (p.82)

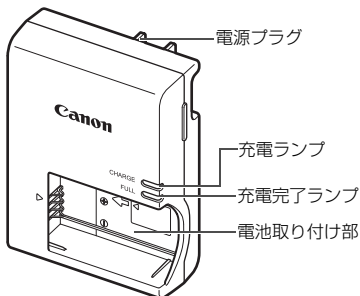


距離目盛が付いていないレンズの例



バッテリーチャージャー LC-E17

バッテリーパック LP-E17の充電器です (p.30)。



注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。

使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

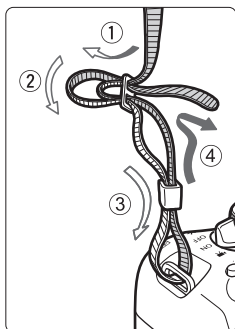
ホームページ：<http://www.jbrc.com>

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

撮影前の準備と操作の基本

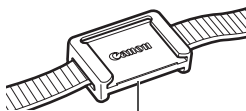
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。



付属のストラップ（吊りひも）の取り付け方

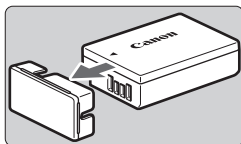
ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っばっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています。



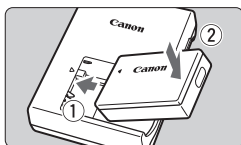
アイピースカバー

電池を充電する



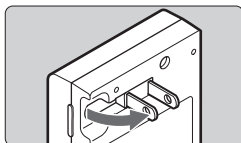
1 保護カバーを外す

- 付属の保護カバーを外します。



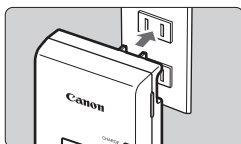
2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



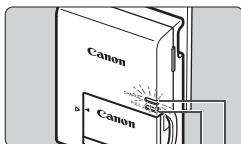
3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、充電完了ランプが緑色に点灯します。



充電完了ランプ
充電ランプ

- 使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間です。なお、充電時間は、周囲の温度や電池の残容量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。



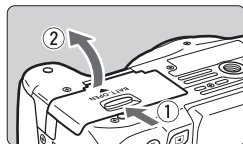
電池と充電器の上手な使い方

- **購入時、電池はフル充電されていません**
充電してからお使いください。
 - **充電は、使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていくます。
 - **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**
 - **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバー（付属）を取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
 - **充電器は海外でも使うことができる**
充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
 - **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
電池の劣化度を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約5秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
 - バッテリーパック LP-E17以外は充電しないでください。
 - バッテリーパック LP-E17は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池を入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E17 をカメラに入れます。このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を抜くと暗くなります。

入れ方



1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



2 電池を入れる

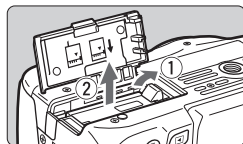
- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

取り出し方



ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー (p.30) を取り付けてください。

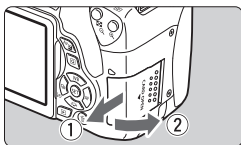
❗ 電池室ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。
ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

カードを入れる／取り出す

カード（別売）は、SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使えます。また、UHS-I 対応のSDHC/SDXCメモリーカードも使えます。撮影した画像は、カードに記録されます。

- ❶ カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

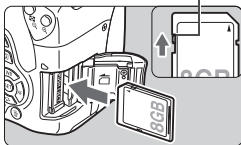
入れ方



1 カバーを開ける

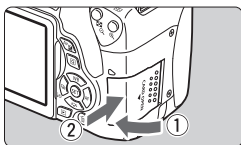
- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

書き込み禁止スイッチ



2 カードを入れる

- 図のようにカードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。



3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数が表示されます。

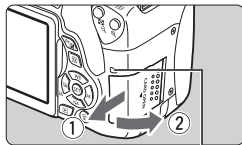


撮影可能枚数



- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- [📷1:カードなしリリース] を [しない] に設定しておく、と、カードを入れ忘れたまま撮影してしまうのを防ぐことができます。

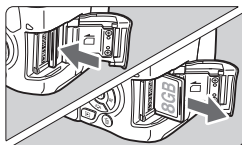
取り出し方



アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。
- 「書き込み中...」と表示されたときは、カバーを閉じてください。



2 カードを取り出す

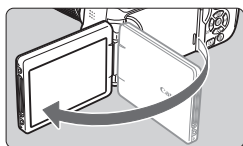
- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

- アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行くと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。

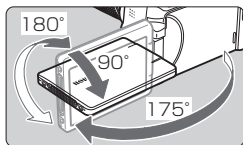
- ・ カードを取り出す
 - ・ 電池を取り出す
 - ・ カメラ本体に振動や衝撃を与える
 - ・ 電源コードの抜き差しを行う（ACアダプターキット使用時）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
- なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.55)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
 - マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

液晶モニターを使う

液晶モニターを開いてメニュー機能の設定や、ライブビュー撮影、動画撮影、画像の再生を行います。液晶モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

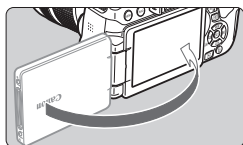


1 液晶モニターを開く



2 液晶モニターを回転させる

- 液晶モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。



3 画面を表向きにする

- 通常は、画面を表向きにして使用します。



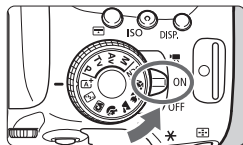
- 液晶モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないよう注意してください。
- カメラに、リモートスイッチ RS-60E3、または外部マイクを接続しているときは、液晶モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。



- カメラを使わないときは、液晶モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- ライブビュー撮影と動画撮影で、液晶モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、38ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。



- 〈〉：カメラが作動します。動画を撮影することができます (p.146)。
- 〈ON〉：カメラが作動します。静止画を撮影することができます。
- 〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます (小さな音が鳴ることがあります)。清掃中は、液晶モニターに〈〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押し (p.46) すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがあります。故障ではありません。

MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約30秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し (p.46) すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、[2: オートパワーオフ] で変更することができます (p.155)。



カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[書き込み中...] が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源を入れたときに、4段階で表示されます。



：電池の残量は十分です。

：電池の残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。

：まもなく電池切れになります。
(点滅表示)

：電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安

(約・枚)

温度	常温 (+23℃)	低温 (0℃)
ストロボ撮影なし	550	470
50%ストロボ撮影	440	400

- フル充電のバッテリーパック LP-E17使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E18（別売）使用時の撮影可能枚数
 - ・ LP-E17×2個使用時：カメラ単体時の約2倍



- 下記の操作を行うと、電池が早く消耗します。
 - ・ シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - ・ AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - ・ レンズの手ブレ補正機能を使用する
 - ・ 液晶モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、133ページを参照してください。
- [ 3：バッテリー情報] で、電池の状態を確認することができます。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する ■

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されます。以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておく、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に自動的に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。



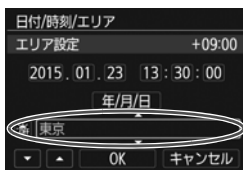
1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



2 【F2】タブの【日付/時刻/エリア】を選ぶ

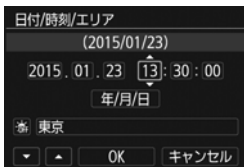
- 〈◀〉〈▶〉を押して【F2】タブを選びます。
- 〈▲〉〈▼〉を押して【日付/時刻/エリア】を選び、〈SET〉を押します。



3 エリアを設定する

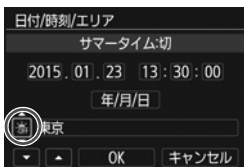
- 初期状態では【ロンドン】に設定されています。
- 〈◀〉〈▶〉を押してエリアの欄を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈◀〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押してエリアを選び、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

- メニュー機能の設定操作は、50～51ページを参照してください。
- 手順3で画面の右上に表示される時間は、協定世界時との時差です。設定したいエリアがないときは、時差を参考にエリアを選択してください。



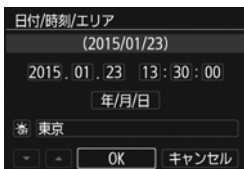
4 日付/時刻を設定する

- <◀> <▶> を押して項目を選びます。
- <SET> を押して、<◀> の状態にします。
- <▲> <▼> を押して設定し、<SET> を押します (<◀> の状態に戻ります)。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- <◀> <▶> を押して [☀] を選びます。
- <SET> を押して、<◀> の状態にします。
- <▲> <▼> を押して [☀] を選び、<SET> を押します。
- サマータイムを [☀] にすると、手順4で設定した時刻が、1 時間進みます。[☀] にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



6 設定を終了する

- <◀> <▶> を押して [OK] を選び、<SET> を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。



以下の条件の場合、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。

- ・カメラから電池を取り出して保管したとき
- ・カメラの電池残量がなくなったとき
- ・カメラを氷点下に長時間放置したとき



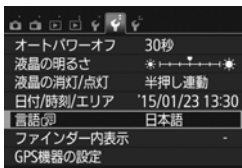
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で [OK] を選んだときに始まります。
- エリア設定を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

MENU 表示言語を選ぶ



1 メニューを表示する

- 〈MENU〉 ボタンを押すと表示されます。



2 [F2] タブの [言語] を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 を押して [F2] タブを選びます。
- 〈▲〉 〈▼〉 を押して、[言語] を選び、〈SET〉 を押します。



3 言語を設定する

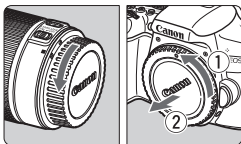
- 〈▲〉 〈▼〉 を押して言語を選び、〈SET〉 を押します。
- 表示言語が切り換わります。



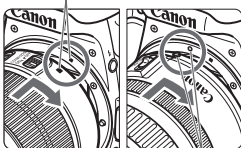
レンズを取り付ける／取り外す

すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。なお、EF-Mレンズは使用できません。

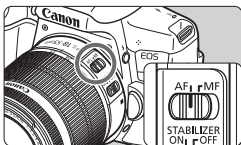
取り付け方



白い指標



赤い指標



1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

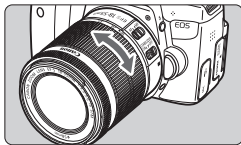
- 〈AF〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。

4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

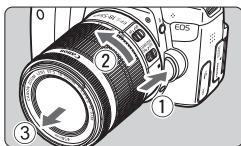
ズーム操作について



レンズのズームリングを手で回す

- ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズれることがあります。

取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

● EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STMをお持ちの方へ

持ち運びの際にズームリングが動いて、レンズが伸び出ることを防ぐことができます。レンズをワイド端（18mm）にして、レンズ側面のズームリングロックレバーを〈LOCK〉方向にスライドさせます。ワイド端以外ではロックできません。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

撮影画面について

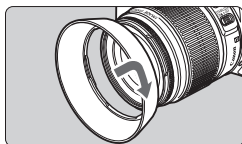
撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



フードの取り付け方

レンズフードを取り付けると、有害な光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどのレンズ前面への付着を軽減することができます。なお、レンズをバッグなどに収納するときは、フードを逆向きに取り付けることもできます。

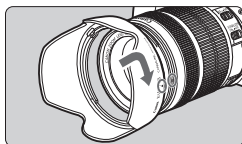
● レンズとフードに取り付け指標が「ない」場合



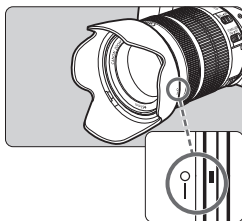
フードを取り付ける

- フードを矢印の方向に回して、確実に取り付けます。

● レンズとフードに取り付け指標が「ある」場合



1 フードの赤いマークと、レンズ先端の赤い指標を合わせ、矢印の方向に回す



2 図の位置まで回す

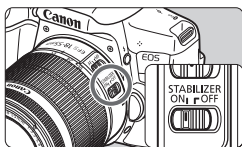
- フードを時計方向に回して、確実に取り付けます。

- フードが正しく取り付けられていないと、フードにより画面の周囲がケラレて（さえぎられて）暗くなることがあります。
- フードの取り付け／取り外しを行うときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。
- カメラの内蔵ストロボを使用するときはフードを外してください。ストロボ光にケラレが生じることがあります。

レンズの手ブレ補正機能について

手ブレ補正機能を内蔵したレンズを使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STMレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

* ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。



1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

- カメラの電源スイッチも〈ON〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

→ 手ブレ補正機能が働きます。

3 撮影する

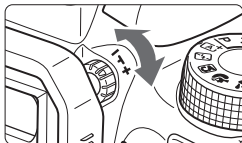
- ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ撮影時は、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にしてください。〈ON〉で撮影すると、手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物などから撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

- 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉〈MF〉のどちらでも働きます。
- 三脚使用時に手ブレ補正スイッチが〈ON〉でも問題なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。
- EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM、EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM、EF-S55-250mm F4-5.6 IS STMレンズ使用時は、撮影状況に応じて手ブレ補正機能のモードが自動的に切り換わります。

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



視度調整つまみを回す

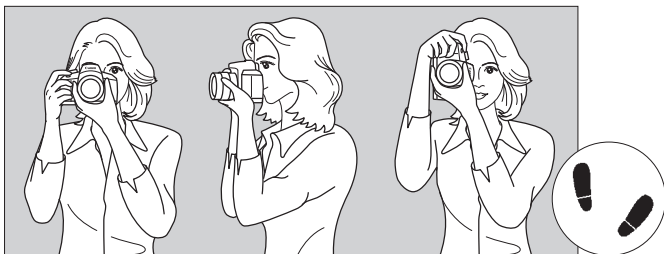
- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。



視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、別売の視度補正レンズEの使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



横位置

縦位置

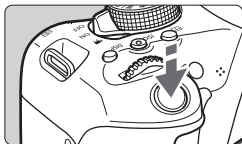
- ①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
- ②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
- ③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
- ④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
- ⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
- ⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。



液晶モニターを見ながら撮影するときは、131ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

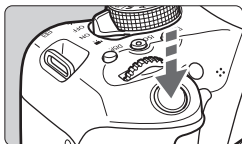


半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内に表示されます（04）。

シャッターボタン半押し中は、液晶モニターが消灯します（p.155）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

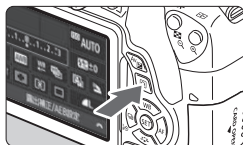
- ・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- ・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。



- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

Q 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。



- 1 <Q> ボタンを押す (約10秒)
→ クイック設定の状態になります。



- 2 機能を設定する
 - <◇> 十字キーを押して機能を選びます。
 - 選んだ機能の内容と、機能ガイド(p.59)が画面に表示されます。
 - <☀> を回して設定を変更します。

かんたん撮影ゾーン



応用撮影ゾーン



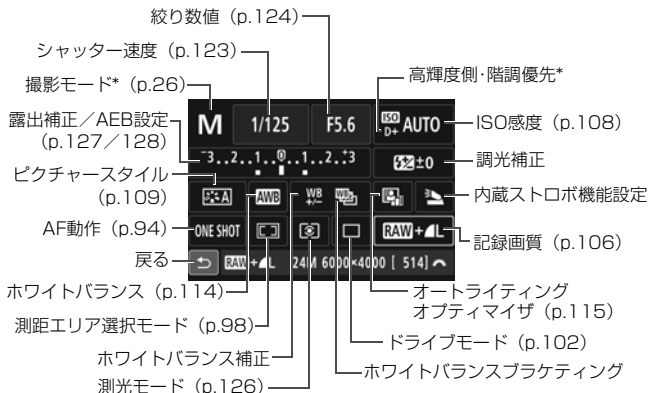
3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影した画像が表示されます。



- かんたん撮影ゾーンで設定できる機能と設定方法については、85ページを参照してください。
- 手順1、2は、液晶モニターをタッチして操作することもできます (p.52)。

クイック設定の画面例



* 印の機能は、クイック設定できません。

設定画面について



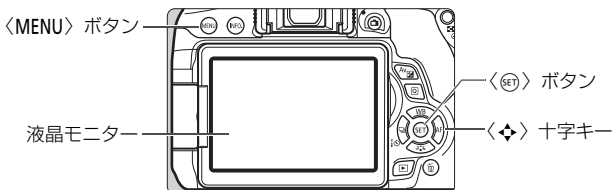
↓ 〈SET〉



- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈◀〉〈▶〉または〈⚙〉で設定を変更します。さらに〈INFO.〉〈☰〉〈⏏〉ボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。
- 〈☑〉(p.97)を選んだときは、〈MENU〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。



メニュー画面

撮影モードによって、表示されるタブやメニュー項目は異なります。

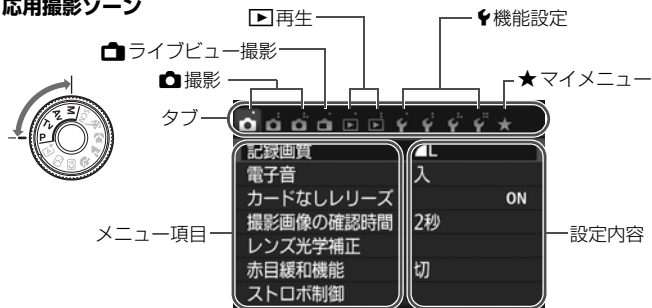
かんたん撮影ゾーン



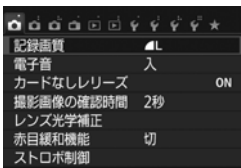
動画撮影



応用撮影ゾーン



メニュー機能の設定操作

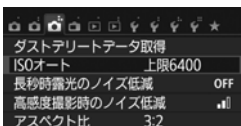


1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

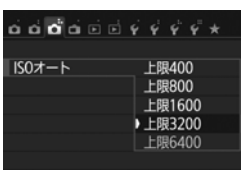
2 タブを選ぶ

- 十字キーの〈◀〉〈▶〉を押してタブ（系統）を選びます。
- 例えば、本文中の〔📷3〕タブは、📷（撮影）タブの左から3番目〔📷📷📷〕を選んでいる画面のことです。



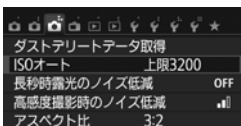
3 項目を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。



4 内容を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉で内容を選びます。（〈▲〉〈▼〉で選ぶ内容と、〈◀〉〈▶〉で選ぶ内容があります）
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。



5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

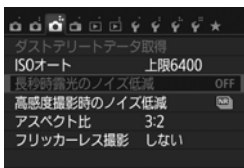
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態に戻ります。



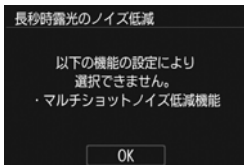
- 手順2は〈〉を回してタブを選ぶこともできます。
- 手順2～5は、液晶モニターにタッチして操作することもできます (p.52)。
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示について

例：[マルチショット
ノイズ低減機能] 設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。



項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。



[4: 設定解除] の [カメラ設定初期化] で、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます (p.156)。

画面にタッチして操作する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて操作することができます。

タッチ

画面例（クイック設定）



- 液晶モニターに指を触れて、指を離します。
- 液晶モニターに表示されるメニューやアイコンなどを選択するときに使います。
- タッチ操作ができるときは、アイコンの外側に枠が付いた状態で表示されます（メニュー画面を除く）。

例えば、[Q] をタッチすると、クイック設定の状態になります。[↶] をタッチすると、元の画面に戻ります。

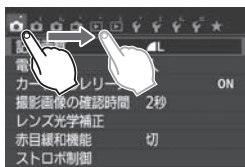


タッチでできる操作

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー機能の設定
- クイック設定
- 〈[Q]〉〈[ISO]〉〈[WB]〉〈[WB]〉〈[WB]〉〈[WB]〉〈[WB]〉〈[WB]〉〈[WB]〉ボタンを押したあとの機能設定
- ライブビュー撮影時のタッチシャッター
- ライブビュー撮影時の機能設定
- 動画撮影時の機能設定
- 再生操作

ドラッグ

画面例（メニュー画面）



- 液晶モニターに指を触れたまま動かし
ます。

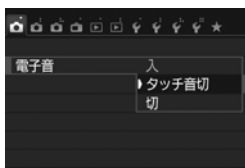
画面例（目盛り表示）



ドラッグでできる操作

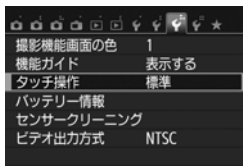
- 〈MENU〉 ボタンを押したあとのメニュー画面のタブや項目の選択
- 目盛り表示の設定
- クイック設定
- ライブビュー撮影時の機能設定
- 動画撮影時の機能設定
- 再生操作

MENU タッチ操作時に電子音が鳴らないようにする



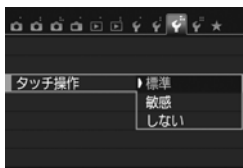
- [📷1:電子音] を [タッチ音切] に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります。

MENU タッチ機能を設定する



1 [タッチ操作] を選ぶ

- [Y3] タブの [タッチ操作] を選び、〈SET〉を押します。



2 タッチ機能を設定する

- 内容を選び 〈SET〉を押します。
- 通常は [標準] を選びます。
- [敏感] は [標準] に比べて、画面に触れたときの反応がよくなります。操作して使いやすい方を選んでください。
- タッチ操作を禁止するときは、[しない] を選びます。

! タッチパネル操作時のご注意

- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- 液晶モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- 液晶モニターに、市販の保護シートやシールを貼らないでください。タッチの反応が悪くなることがあります。
- [敏感] 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

MENU カードを初期化する

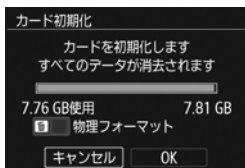
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

- ❶ カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。



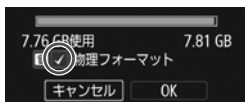
1 [カード初期化] を選ぶ

- [F1] タブの [カード初期化] を選び、〈SET〉を押します。



2 初期化する

- [OK] を選び 〈SET〉を押します。
 - ➔ カードが初期化されます。
 - ➔ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。
- 物理フォーマットを行うときは、〈罫〉ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に 〈✓〉 が付いた状態で [OK] を選びます。





こんなときに【カード初期化】を行います

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき
- カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき (p.188)

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に【キャンセル】を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。



- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- 新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。

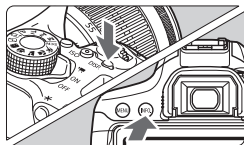
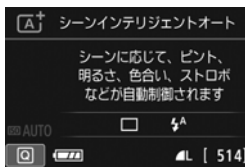


- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

液晶モニターの表示切り換え

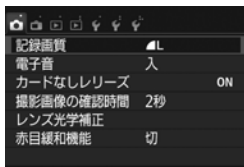
液晶モニターには、撮影機能の設定状態や、メニュー機能、撮影した画像などを表示させることができます。

撮影機能の設定状態



- 電源を入れると、撮影機能の設定状態が表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。
- 〈DISP.〉 ボタンを押して表示を消すこともできます。もう一度押すと表示されます。
- 〈INFO.〉 ボタンを押すたびに、撮影機能の設定状態（p.24）と、カメラの設定内容の切り換えができます。

メニュー機能



- 〈MENU〉 ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。
- 〈▶〉 ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

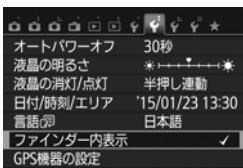
撮影した画像



- [▼2: 液晶の消灯/点灯] で、液晶モニターの表示が、消えたり点いたりしないようにすることができます（p.155）。
- メニュー機能や撮影した画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、すぐに撮影することができます。

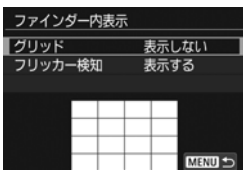
グリッドを表示する

カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドを、ファインダー内に表示することができます。



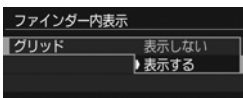
1 【ファインダー内表示】を選ぶ

- [F2] タブの【ファインダー内表示】を選び、〈SET〉を押します。



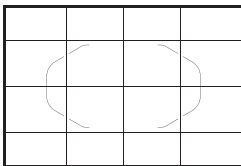
2 【グリッド】を選ぶ

- 【グリッド】を選び 〈SET〉を押します。



3 【表示する】を選ぶ

- 【表示する】を選び 〈SET〉を押します。
- ➔ メニューを終了すると、ファインダー内にグリッドが表示されます。

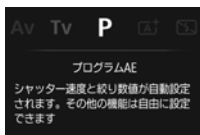
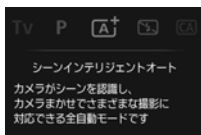


ライブビュー撮影時、および動画撮影開始前に、液晶モニターにグリッドを表示することができます。

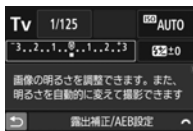
機能ガイドについて

撮影モードを変更したときや、撮影機能、ライブビュー撮影、動画撮影、再生時のクイック設定時に、撮影モードや機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）が画面に表示されます。クイック設定のときは、機能・項目を選ぶと説明が表示されます。表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

● 撮影モード（例）



● クイック設定（例）



撮影機能

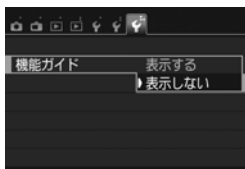


ライブビュー撮影



再生

MENU 機能ガイドを表示しないようにする



【機能ガイド】を選ぶ

- [F3] タブの「機能ガイド」を選び、〈SET〉を押します。
- 「表示しない」を選び 〈SET〉を押します。

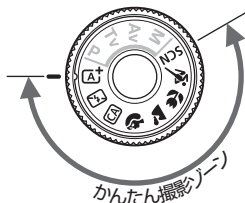
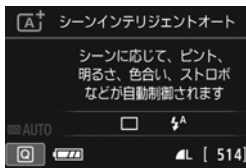


2

かんたん撮影と画像確認

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます (p.85、168)。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。



 モードダイヤルを〈SCN〉にしたときに、液晶モニターが消灯している場合は、〈Q〉ボタンを押して撮影モードを確認してから撮影してください (p.76)。

〔A+〕 全自動で撮る (シーンインテリジェントオート) ■

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます (p.65)。



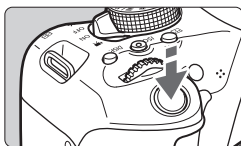
1 モードダイヤルを〈A+〉にする

エリアAFフレーム



2 被写体 (写したいもの) にエリアAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
- エリアAFフレームの中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。

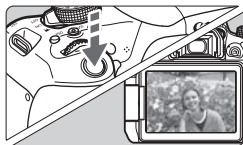


3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。
- 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。



合焦マーク



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が2秒間表示されます。
- 撮影を終了するときは、内蔵ストロボを手で押し下げて収納します。



〈全自動〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影ゾーンで、〈AF-ON〉以外のピクチャスタイルを選んで撮影してください (p.109)。



こんなときは

● 合焦マーク (●) が点滅してピントが合わない

明暗差 (コントラスト) のある部分にエリアAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください (p.46)。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● ピントが合ったのにAFフレームが赤く照明されない

AFフレームは、暗い場所でピントが合ったときに赤く照明されます。

● 複数のAFフレームが同時に表示される

表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。

● **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントが合った写真を撮ることができます。

なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影(p.65)はできません。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈AF〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態のときは、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。ストロボを発光させたくないときは、クイック設定で[ストロボの発光]を[④]に設定するか(p.84)、〈〉（ストロボ発光禁止）モードで撮影してください(p.67)。

● **ストロボが発光して、かなり明るい写真になった**

被写体から離れて撮影してください。ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離の目安は4m以内です。なお、内蔵ストロボが連続して発光するときに音がしますが、故障ではありません。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。被写体から離れて撮影してください。また、レンズの先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

〔A+〕 全自動を使いこなす (シーンインテリジェントオート) ■

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈A+〉モードでは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます(〈P〉〈S〉を除く)。

動いているものを撮影する



〈A+〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く(距離が変わる)と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能(AIサーボAF)が働きます(電子音が小さく鳴り続けます)。被写体がエリアAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、131ページを参照してください。



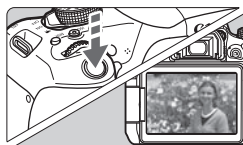
1 液晶モニターに映像を表示する

- 〈〉 ボタンを押します。
- 液晶モニターに映像が表示されます。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈〉 ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

液晶モニターの向きを変えて撮影することができます (p.35)。



通常のアングル



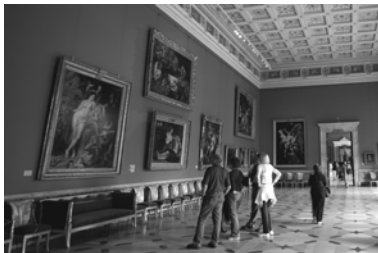
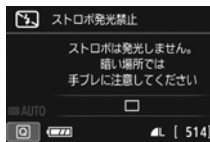
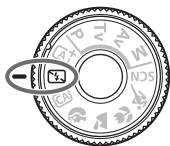
ローアングル



ハイアングル

📷 ストロボが使えない場所で写す

カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈📷〉（ストロボ発光禁止）を使用します。



💡 撮影のポイント

● ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● 人物も写真に入れるときは

暗い場所では、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉モードでは、①エフェクトショット、②雰囲気を選んで撮影、③背景ぼかし設定、④ドライブモード、⑤ストロボの発光を設定して撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈CA+〉モードと同じです。

* CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。



1 モードダイヤルを〈CA〉にする



2 〈Q〉ボタンを押す (約10)

→ クイック設定の状態になります。



3 機能を設定する

- 〈+〉十字キーを押して機能を選びます。
- 選んだ機能の内容と、機能ガイド (p.59) が画面に表示されます。
- 〈SET〉を押して機能を設定します。
- 機能の設定方法と内容については、69～71ページを参照してください。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。



①②③はライブビュー撮影状態で設定すると、撮影前に効果を画面で確認することができます。

①エフェクトショット

- ・クリエイティブフィルター (p.135) やピクチャスタイル (p.109)、雰囲気を選んで撮影 (p.86) から撮影効果を選んで、撮影することができます。
- ・〈◀〉〈▶〉で [📷:する] を選び、〈🌅〉で撮影効果を選んで撮影します。
- ・1回の撮影で、撮影効果なし/効果ありの2枚が撮影されます。撮影直後、撮影効果なし (左) / 効果あり (右) の両方の画像が同時に表示されます。

気に入った撮影効果を登録する

- ・撮影直後または再生時に、効果ありの画像には、[SET 📷i] アイコンが表示されます。〈SET〉を押したあと 〈INFO.〉 ボタンを押すと、その撮影効果の内容を確認することができます。
- ・撮影効果は [★:お気に入り効果] に2つまで登録することができます。
- ・登録した [★:お気に入り効果] を選べば、その撮影効果で撮影することができます。[★:お気に入り効果] は、上書きすることができます。



- Eye-Fi カード使用時に、転送済みの画像を削除する設定にしている場合、撮影直後の再生時に、撮影効果なしの画像は表示されません。
- ライブビュー映像で表示されるエフェクトショットの仕上がりイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

② 雰囲気を選んで撮影

- ・どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影することができます。
- ・〈▲〉〈▼〉で選びます。

③ 背景ぼかし設定



- ・[OFF] は、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。
- ・[OFF] 以外に設定すると、明るさに関係なく背景のボケ具合が調整できます。
- ・〈☀️〉でカーソルを右に動かすほど、被写体の背景がくっきりした写真になります。
- ・〈🌀〉でカーソルを左に動かすほど、被写体の背景がぼけた写真になります。なお、レンズの明るさ(F値)によっては、選べない位置があります。
- ・ライブビュー撮影状態にすると、ピントが合った前後のボケ具合が確認できます。〈☀️〉での操作中、液晶モニターに「ぼかしシミュレーション中」と表示されます。
- ・背景をぼかしたいときは、72 ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。
- ・使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。
- ・ストロボ撮影時は設定できません。なお、〈⚡️〉設定時に、背景ぼかし設定を行うと、自動的に〈🔍〉に変更されます。

- ライブビュー撮影時「ぼかしシミュレーション中」に〈Exp.SIM〉(p.134) が点滅しているときは、実際に撮影される画像よりもノイズが多かったり、暗く見ることがあります。
- ①エフェクトショット、②雰囲気を選んで撮影、を同時に設定することはできません。
- ①エフェクトショット、③背景ぼかし設定、を同時に設定することはできません。

④ **ドライブモード**：〈〉で選びます。

〈〉 **1枚撮影**：1枚だけ撮影します。

〈〉 **連続撮影**：シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。
1秒間に最高約5.0枚の連続撮影を行うことができます。

〈〉 **静音1枚撮影***：

作動音が〈〉よりも静かな1枚撮影です。

〈〉 **静音連続撮影***：

作動音が〈〉よりも静かな連続撮影(最高約3.0コマ/秒)です。

〈〉 **セルフタイマー：10秒/リモコン**：

シャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。リモコン撮影も可能です。

〈〉 **セルフタイマー：2秒**：

シャッターボタンを押すと、2秒後に撮影されます。

〈〉 **セルフタイマー：連続撮影**：

〈〉〈〉を押して撮影する枚数(2~10)を設定します。シャッターボタンを押すと、10秒後に設定した枚数を連続撮影します。

* ライブビュー撮影時は、設定できません。

⑤ **ストロボの発光**：〈〉で選びます。

〈〉 **ストロボ自動発光**：必要に応じて自動的に発光します。

〈〉 **ストロボ発光**：常時ストロボが発光します。

〈〉 **ストロボ発光禁止**：ストロボは発光しません。



- 〈〉については、67ページの『ストロボが使えない場所で写す』を参考に撮影してください。
- エフェクトショットが設定されているときは、**RAW+L**、**RAW**、および〈〉〈〉は設定できません。
- 背景ぼかし設定を設定しているときは、ストロボ撮影はできません。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈〉（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



撮影のポイント

● 人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がはっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● 望遠レンズを使用する

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● 顔にピントを合わせる

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目にピントを合わせると効果的です。



初期設定では、〈〉（連続撮影）が設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約5.0枚）して表情やポーズの変化を写すことができます。

風景を写す

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈〉（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。



撮影のポイント

● ズームレンズは広角側にする

ズームレンズのときは、レンズを広角側にするると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● 夜景を撮影するときは

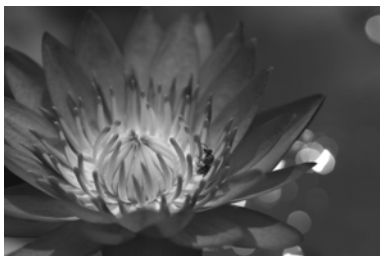
〈〉は内蔵ストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ちで夜景を撮影すると手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。



- 逆光や暗い場所でも内蔵ストロボは発光しません。
- 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

🌸 花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌸〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。



撮影のポイント

● すっきりした背景を選ぶ

背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

● 写したいものにできるだけ近づく

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈MACRO 0.25m/0.8ft〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈📷〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

ストロボが発光して、画像の下側が不自然に暗くなった場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● ズームレンズは望遠側にする

ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

🏃 動きのあるものを写す

人の走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏃〉（スポーツ）を使用します。



💡 撮影のポイント

● 望遠レンズを使用する

遠くからでも撮影できるように、できるだけ望遠レンズを使用します。

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける

ファインダー内の中央に表示されたAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム内でピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

初期設定では、〈Q/L〉（連続撮影）が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（1秒間に最高約5.0枚）して動きの変化を写すことができます。

- 手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。
- ライブビュー撮影時は、ワンショットAF（p.95）になります。
- 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

SCN: スペシャルシーンモードで撮る

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。



1 モードダイヤルを〈SCN〉にする

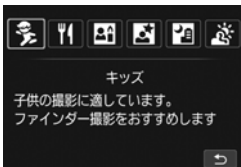


2 〈Q〉ボタンを押す (ⓐ10) → クイック設定の状態になります。



3 撮影モードを選ぶ

- 〈◇〉十字キーを押して撮影モードのアイコンを選びます。
- 〈⚙〉を回して、撮影モードを選びます。
- 撮影モードのアイコンを選び、〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。



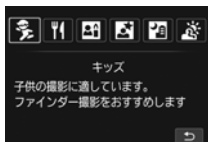
〈SCN〉モードで設定できる撮影モード

撮影モード	参照頁
キッズ	p.77
料理	p.78
キャンドルライト	p.79

撮影モード	参照頁
夜景ポートレート	p.80
手持ち夜景	p.81
HDR 逆光補正	p.82

👤 子供を写す

動き回る子供にピントを合わせ続けて撮影したいときは、〈👤〉(キッズ)を使用します。肌色が健康的な写真になります。



💡 撮影のポイント

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける

ファインダー内の中央に表示されたAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム内でピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

● 連続して撮影する

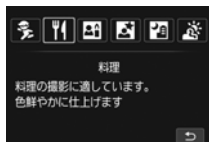
初期設定では、〈📷〉(連続撮影)が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影(1秒間に最高約5.0枚)して、表情や動きの変化を写すことができます。



- ストロボ充電中は、ファインダー内に「🔌buSY」が表示され、撮影できません。表示が消えてから撮影をしてください。また、ライブビュー撮影時は、液晶モニターに「BUSY」が表示されるため、被写体を確認することができません。
- ライブビュー撮影時は、ワンショットAF (p.95) になります。

🍴 料理を写す

料理を撮影するときに、〈🍴〉(料理)を使用します。明るく、鮮やかな色あいの写真になります。



撮影のポイント

● 色あいを変える

[色あい]を変えることができます。一般的に、料理の写真は少し赤みがある方が鮮やかに見えます。料理の赤みを強めたいときは[暖色]側に、赤みが強すぎるときは[寒色]側に設定を変更して撮影してください。

● アップで撮影する

ズームレンズのときは、望遠側にして料理を大きく切り取ると効果的です。

● なるべくストロボを使わないで撮影する

料理にストロボ光が直接あたると、お皿や料理に反射光が写り込んだり、不自然な影ができてしまったりします。そのため、初期設定では、〈🚫〉(ストロボ発光禁止)に設定されています。暗い場所では手ブレに注意して撮影してください。



- 料理を鮮やかな色あいに撮影するためのモードなので、人物は適切な色あいにすることがあります。
- ストロボ撮影時は、[色あい]の設定が標準設定に切り換わります。

📷 キャンドルライトと人物を写す

キャンドルライトに照らされた人物を撮りたいときは、〈📷〉（キャンドルライト）を使用します。キャンドルライトの雰囲気を生かした色あいの写真になります。



💡 撮影のポイント

● 中央のAFフレームでピントを合わせる

ファインダー中央のAFフレームを人物に合わせて撮影します。

● ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● 色あいを変える

〔色あい〕を変えることができます。キャンドルライトの赤みを強めたいときは〔暖色〕側に、赤みが強すぎるときは〔寒色〕側に設定を変更して撮影してください。



- ライブビュー撮影はできません。
- 内蔵ストロボは発光しません。なお、暗い場所では、AF補助光が光ることがあります（p.96）。
- 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

📷 夜景と人物を写す（三脚を使う）

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈📷〉（夜景ポートレート）を使用します。三脚の使用をおすすめします。



💡 撮影のポイント

● 広角レンズと三脚を使用する

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

● 画像の明るさを確認する

暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。

なお、撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

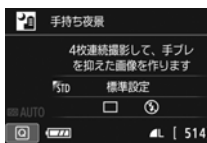
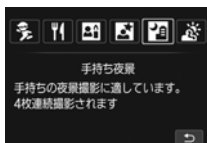
● 他の撮影モードでも撮影しておく

ブレた写真になりやすいので、〈📷+〉と〈📷〉でも撮影しておくことをおすすめします。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。
- 注意事項は83ページを参照してください。

📷 夜景を写す（手持ち撮影）

夜景を撮影するときは三脚を使用した方がきれいに撮影できますが、**〈Q〉**（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。



💡 撮影のポイント

● カメラをしっかり構える

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

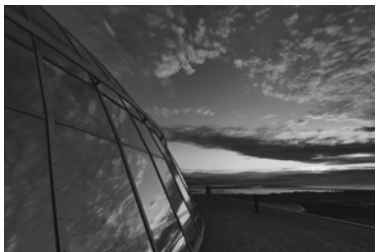
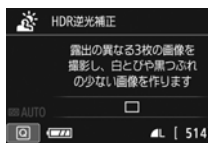
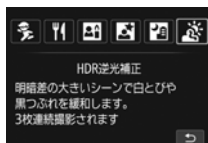
● 人物も一緒に撮るときはストロボ発光

人物も一緒に撮るときは**〈Q〉**ボタンを押して**〈⚡〉**（ストロボ発光）に設定します。人物もきれいに写るように、初めの1枚がストロボ撮影になります。4枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

🔊 注意事項は83ページを参照してください。

🌟 逆光シーンを写す

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、〈🌟〉（HDR逆光補正）を使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。



💡 撮影のポイント

● カメラをしっかり構える

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

- ストロボは発光しません。なお、暗い場所では、AF補助光が光ることがあります（p.96）。
- 注意事項は83ページを参照してください。

📄 HDRは、High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



〈Ⅸ〉(夜景ポートレート)と〈Ⅹ〉(手持ち夜景)の共通注意事項

- ライブビュー撮影時、夜景など、点状の光源ではピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください。
- ライブビュー映像で表示される仕上りのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

〈Ⅹ〉(手持ち夜景)の注意事項

- ストロボ撮影時に、被写体が近いとかなり明るい写真(露出オーバー)になることがあります。
- ストロボ撮影時に、明かりが少ない夜景を撮影するときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。
- ストロボ撮影時に、人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。また、不自然な影ができたり、色あいが適切にならないことがあります。
- 外部ストロボ使用時の照射角について
 - ・ 照射角の自動設定に対応したストロボのときは、レンズのズーム位置に関係なく、ストロボのズーム位置がワイド(広角)端に固定されます。
 - ・ 照射角を手動設定するストロボのときは、発光部をワイド(広角)側にして撮影してください。

〈Ⅸ〉(夜景ポートレート)の注意事項

- ライブビュー撮影時、人物の顔が暗いときはピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください。

〈Ⅹ〉(手持ち夜景)と〈Ⅺ〉(HDR逆光補正)の共通注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- **RAW** + **L**、**RAW**は選択できません。**RAW** + **L**または**RAW**が設定されているときは、**L**になります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のスレ量が大きいたまは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 撮影モードが〈Ⅹ〉〈Ⅺ〉に設定されているときは、ダイレクトプリントできません。

！ 〈Q〉（HDR逆光補正）の注意事項

- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。

Q クイック設定について

かんたん撮影ゾーンで、撮影機能の設定状態が表示されているときに、〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定の状態になり、次ページの表に示した項目が設定できるようになります。

1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする

例：ポートレートモード



2 〈Q〉ボタンを押す（約10秒）

→ クイック設定の状態になります。

3 機能を設定する

- 〈Q〉十字キーを押して機能を選びます（〈Q〉ではこの操作は不要）。
→ 選んだ機能の内容と、機能ガイド(p.59)が画面に表示されます。
- 〈◀〉〈▶〉または〈設定〉で設定を変更します。
- 機能を選び〈GET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。



かんたん撮影ゾーンで設定できる機能

●：初期設定 ○：選択可能 □：選択不可

項目								
ドライブモード (p.102)	□：1枚撮影	●	●	●	○	●	●	○
	：連続撮影	○	○	○	●	○	○	●
	□S：静音1枚撮影	○	○	○	○	○	○	○
	S：静音連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
	(10秒)	○	○	○	○	○	○	○
	2 (2秒)	○	○	○	○	○	○	○
	c (連続撮影)	○	○	○	○	○	○	○
ストロボの発光	A：自動発光	●	□	●	●	□	●	□
	：常時発光	○	□	○	○	□	○	□
	：発光禁止	○	●	○	○	●	○	●
雰囲気を選んで撮影 (p.86)		□	□	○	○	○	○	○
明かりや状況にあわせて撮影 (p.88)		□	□	□	○	○	○	○
背景ぼかし設定 (p.70)		□	□	○	□	□	□	□
色あい (p.78、79)		□	□	□	□	□	□	□
エフェクトショット (p.69)		□	□	○	□	□	□	□

項目		SCN					
ドライブモード (p.102)	□：1枚撮影	○	●	●	●	●	●
	：連続撮影	●	○	○	○	○	○
	□S：静音1枚撮影	○	○	○	○	○	○
	S：静音連続撮影	○	○	○	○	○	○
	(10秒)	○	○	○	○	○	○
	2 (2秒)	○	○	○	○	○	○
	c (連続撮影)	○	○	○	○	○	○
ストロボの発光	A：自動発光	●	□	□	●	□	□
	：常時発光	○	○	□	□	○	□
	：発光禁止	○	●	●	□	●	●
雰囲気を選んで撮影 (p.86)		○	○	○	○	○	□
明かりや状況にあわせて撮影 (p.88)		○	□	□	□	□	□
背景ぼかし設定 (p.70)		□	□	□	□	□	□
色あい (p.78、79)		□	○	○	□	□	□
エフェクトショット (p.69)		□	□	□	□	□	□

* 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（セルフタイマーの設定を除く）。

雰囲気を選んで撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈A+〉〈M〉〈S〉を除く撮影モードでは、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。

雰囲気	CA/📷/🌄/ 🌅/🌃	SCN		雰囲気の効果
		🌄/🌅/🌃	🌅/🌃/🌄	
STD 標準設定	○	○	○	設定なし
V くっきり鮮やかに	○	○		弱め/標準/強め
S ふんわりやわらかく	○	○		弱め/標準/強め
W 暖かくやさしく	○	○		弱め/標準/強め
I しっとり深みのある	○	○		弱め/標準/強め
C ほの暗くひっそりと	○	○		弱め/標準/強め
B 明るく	○	○	○	少し/もう少し/さらに
D 暗く	○	○	○	少し/もう少し/さらに
M モノクロ	○	○	○	青/白黒/セピア

1 モードダイヤルを〈CA〉〈📷〉〈🌄〉〈🌅〉〈🌃〉〈SCN〉のいずれかにする

- 〈SCN〉のときは、〈🌄〉〈🌅〉〈🌃〉〈🌄〉〈🌅〉のいずれかに設定します。



2 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します（〈🌄〉を除く）。



3 クイック設定で雰囲気を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（📷10）。
- 〈▲〉〈▼〉を押して「STD 標準設定」を選び、画面に「雰囲気を選んで撮影」が表示された状態にします。

- 〈◀〉〈▶〉を押して雰囲気を選びます。
- ➔ 選んだ雰囲気の仕上がりイメージが表示されます。



4 雰囲気の効果を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、画面の下側に「雰囲気の効果」が表示された状態にします。
- 〈◀〉〈▶〉を押して効果の度合い・内容を選びます。

5 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈📷〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、[FSTD 標準設定]に戻ります。

- ❗
- ライブビュー映像で表示される雰囲気の仕上がりイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。
 - ストロボ撮影のときは、雰囲気の効果が小さくなる場合があります。
 - 明るい屋外で見るライブビュー映像は、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なる場合があります。[🔧2: 液晶の明るさ]で液晶モニターの明るさを目盛4の位置にして、周りの光の影響を受けないようにして映像を見てください。

- 📄
- 設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈📷〉ボタンを押して、「雰囲気を選んで撮影」と「雰囲気の効果」を設定します。

明かりや状況にあわせて撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈P〉〈M〉〈A〉〈S〉〈SCN〉では、明かりや状況にあわせた設定で撮影することができます。通常は〔STD 標準設定〕で十分ですが、明かりや状況にあわせた設定にすることで、見た目の印象（記憶した色）に近い写真にできることがあります。

ライブビュー撮影時に、〔雰囲気を選んで撮影〕（p.86）と組み合わせるときは、〔明かりや状況にあわせて撮影〕を先に設定しておく、液晶モニターで仕上がりのイメージが確認しやすくなります。

明かりや状況	P	M	A	S	SCN
					SCN
〔STD〕 標準設定	○	○	○	○	○
〔D〕 日なた	○	○	○	○	○
〔B〕 日かげ	○	○	○	○	○
〔C〕 くもり	○	○	○	○	○
〔L〕 電球	○		○	○	○
〔F〕 蛍光灯	○		○	○	○
〔N〕 夕焼け	○	○	○	○	○

1 モードダイヤルを〈P〉〈M〉〈A〉〈S〉〈SCN〉のいずれかにする

- 〈SCN〉のときは、〈SCN〉に設定します。

2 ライブビュー映像を表示する

- 〈L〕 ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。





3 クイック設定で明かりや状況を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します (p.10)。
 - 〈▲〉〈▼〉を押して〔STD 標準設定〕を選び、画面に〔明かりや状況にあわせて撮影〕が表示された状態にします。
 - 〈◀〉〈▶〉を押して明かりや状況を選びます。
- 選んだ明かりや状況の仕上がりイメージが表示されます。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈■〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、〔STD 標準設定〕に戻ります。

- ストロボ撮影のときは、〔STD 標準設定〕に切り換わります (ただし、撮影情報は設定した明かりや状況が表示されます)。
- 〔雰囲気を選んで撮影〕と組み合わせるときは、設定した雰囲気の効果を活かせる適切な「明かりや状況」を設定してください。特に〔夕焼け〕は、暖かみのある色あいになるため、設定した雰囲気の効果を活かせないことがあります。

- 設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと 〈Q〉ボタンを押して、〔明かりや状況にあわせて撮影〕を設定します。

▶ 画像を再生する

ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。



1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉 を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。
- 〈▶〉 を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO〉 ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



情報表示なし



簡易情報表示



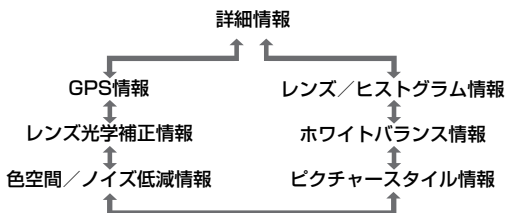
撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

撮影情報表示について

撮影情報表示の画面（p.90）が表示されている状態で〈▲〉〈▼〉を押すと、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。

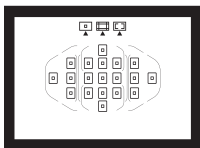


- 表示される内容は、撮影モードや設定によって異なります。
- 画像にGPS情報が記録されていないときは、GPS情報の画面は表示されません。



3

AF / ドライブの設定



ファインダー内に配置された19点のAFフレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

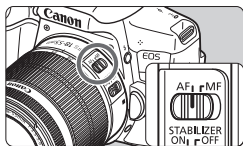
- ページタイトル右の**応用**は、応用撮影ゾーン（p.26）限定の機能であることを示しています。
- かんたん撮影ゾーンでは、AF動作、AFフレーム（測距エリア選択モード）が自動設定されます。



〈AF〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈MF〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF: ピント合わせの動作を変える 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。



- 1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



- 2 〈▶ AF〉ボタンを押す
→ [AF動作] が表示されます。



- 3 AF動作を選ぶ
● 〈◀▶〉を押してAF動作を選び、〈SET〉を押します。

- 4 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したAF動作でピント合わせが行われます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF



AFフレーム 合焦マーク

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 測距エリア選択モード（p.97）が、19点自動選択AFのときは、初めに任意選択したAFフレームで被写体を捉えます。被写体が任意選択したAFフレームから外れても、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AFフレームの赤色照明について

初期状態では、暗い場所でピントが合ったときにAFフレームが赤く照明されます。なお、応用撮影ゾーンでは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます。

内蔵ストロボによるAF補助光について

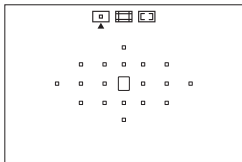
暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

測距エリアとAFフレームを選択する 応用

自動ピント合わせを行うためのAFフレーム（測距点）を19点備えています。撮影シーンや被写体に応じて、測距エリア選択モードとAFフレームを選ぶことができます。

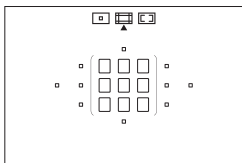
測距エリア選択モード

測距エリア選択モードを3種類の中から選ぶことができます。選択方法は、次ページを参照してください。



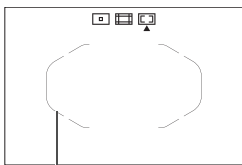
: 1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。



: ゾーンAF（ゾーン任意選択）

19点のAFフレームを、5つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。

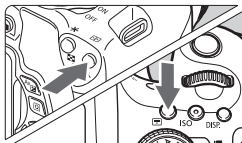


: 19点自動選択AF

すべてのAFフレームを使ってピント合わせを行います。**かんたん撮影ゾーンでは、このモードに自動設定されます（〈〉を除く）。**

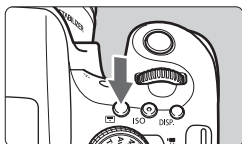
エリアAFフレーム

測距エリア選択モードを選ぶ



1 <ISO> または <ISO> ボタンを押す (1/6)

- ファインダーをのぞきながら、<ISO> または <ISO> ボタンを押します。



2 <ISO> ボタンを押す

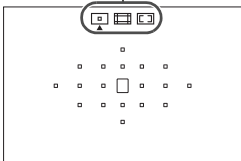
- <ISO> ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。
- ファインダー内の上側で、測距エリア選択モードを確認することができます。

□ : 1点AF (任意選択)

□ : ゾーンAF (ゾーン任意選択)

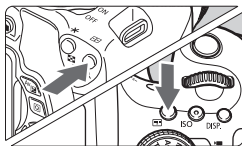
□ : 19点自動選択AF

測距エリア選択モード



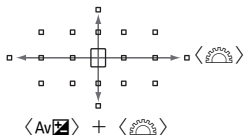
AFフレームを任意選択する

AFフレーム、またはゾーンを任意選択することができます。なお、19点自動選択AF + AIサーボAFに設定されているときは、AIサーボAFの開始位置を任意選択することができます。



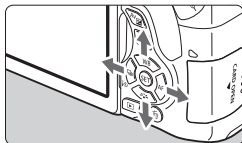
1 <AF-ON> または <AF-AREA> ボタンを押す (P.6)

- ➔ ファインダー内に AF フレームが表示されます。
- ゾーン AF のときは、選択されているゾーンが表示されます。



2 AFフレームを選択する

- <AF-AREA> で横方向、<Av/AF-ON> ボタンを押しながら <AF-AREA> を回すと縦方向の AF フレームを選択することができます。<SET> を押すと、中央の AF フレーム (または中央のゾーン) が選択されます。
- ゾーン AF のときは、<AF-AREA> を回すと、ゾーンが循環して切り換わります。
- <◀> <▶> で横方向、<▲> <▼> で縦方向の AF フレームやゾーンを選択することもできます。



測距エリア選択モードの内容 応用

1点AF (任意選択)

ピント合わせを行う AF フレームを 1 点〈□〉選択します。

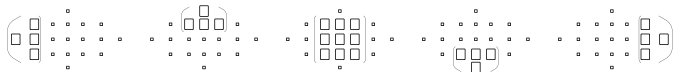


ゾーンAF (ゾーン任意選択)

19点のAFフレームを、5つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、動きのある被写体を撮影するときには有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、1点AFよりも狙った被写体にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。



19点自動選択AF

すべてのAFフレームを利用してピント合わせを行います。かんたん撮影ゾーンでは、このモードに自動設定されます (〈〉を除く)。

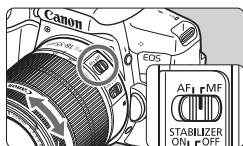


ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。複数のAFフレームが表示されたときは、そのすべてにピントが合っています。



AIサーボAFのときは、初めに任意選択 (p.99) したAFフレーム〈□〉でピントを合わせます。ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。

MF: 手動でピントを合わせる (マニュアルフォーカス) ■

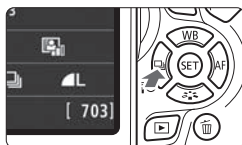


フォーカスリング

- 1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする
- 2 ピントを合わせる
 - ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

📷 ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。



- 1 <📷> ボタンを押す
→ [ドライブモード] が表示されます。



- 2 ドライブモードを選ぶ
● <◀>> を押してドライブモードを選び、<SET> を押します。

📷 : 1枚撮影

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

📷 : 連続撮影（最高約5.0コマ/秒）

シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

📷S : 静音1枚撮影

作動音が<📷>よりも静かな1枚撮影です。

📷S : 静音連続撮影（最高約3.0コマ/秒）

作動音が<📷>よりも静かな連続撮影です。

🕒 : セルフタイマー：10秒/リモコン撮影

🕒2 : セルフタイマー：2秒

🕒c : セルフタイマー：連続撮影

セルフタイマー撮影については103ページを参照してください。



4

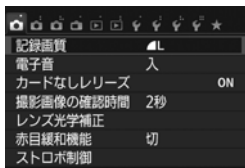
画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオブティマイザ、ノイズ低減機能、レンズ光学補正、フリッカー低減撮影など、画像に関する機能設定について説明しています。

- ページタイトル右の**応用**は、応用撮影ゾーン（p.26）限定の機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。記録画質は、**L**、**L**、**M**、**M**、**S1**、**S1**、**S2**、**S3**、**RAW+L**、**RAW**の10種類です。



1 記録画質を選ぶ

- [1] タブの「記録画質」を選び、〈SET〉を押します。
- 「記録画質」が表示されます。

記録画素数

撮影可能枚数



2 記録画質を設定する

- 画面上に表示される「記録画素数」と、「撮影可能枚数」を目安に選び、〈SET〉を押します。

記録画質を選ぶときの目安

(約)

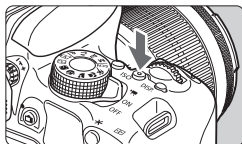
記録画質			記録画素数	ファイル サイズ (MB)	撮影可能 枚数	連続撮影 可能枚数	
 L	高画質	JPEG	2400万 (24M)	7.6	940	180 (940)	
 L				3.9	1810	1810 (1810)	
 M	中画質		1060万 (11M)	4.0	1770	1770 (1770)	
 M				2.0	3500	3500 (3500)	
 S1	低画質		590万 (5.9M)	2.5	2830	2830 (2830)	
 S1				1.3	5320	5320 (5320)	
S2			250万 (2.5M)	1.3	5320	5320 (5320)	
S3			35万 (0.3M)	0.3	20180	20180 (20180)	
 RAW +  L	高画質		2400万 (24M)	28.1+7.6	190	6 (6)	
 RAW				28.1	240	7 (8)	

* ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定したものです。これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。

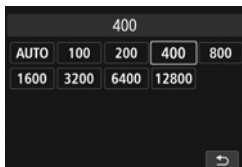
* 連続撮影可能枚数の（ ）内の数値は、当社試験基準 UHS-I 対応、8GBカード使用時の枚数です。

ISO: 明るさに応じて感度を変える 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。
かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます。



1 〈ISO〉ボタンを押す (☀6)



2 ISO感度を設定する

- ファインダー内または液晶モニターを見ながら〈◀〉〈▶〉または〈☀〉でISO感度を選び、〈SET〉を押します。
- ➔ [AUTO] を選ぶと、ISO感度が自動設定されます。

ISO感度を選ぶときの目安

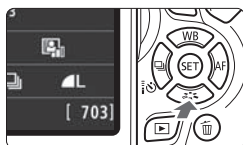
ISO感度	撮影シーン (ストロボなし)	ストロボ撮影できる距離
100~400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、 ストロボ撮影できる距離が長 くなります (p.130)。
400~1600	曇り空、夕方	
1600~12800、H	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、[P/A]（オート）に自動設定されます。



- 1 <▼ピクチャー> ボタンを押す
→ スタイル選択画面が表示されます。



- 2 スタイルを選ぶ
● スタイルを選び、<SET>を押します。
→ スタイルが設定されます。

[カメラアイコン] [カメラ2：ピクチャースタイル] から設定することもできます。

各スタイルの画像特性について

[P/A] オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

[カメラアイコン] [オート] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

[P/S] スタダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

🖼️👤 ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

112ページの「色あい」を変えると、肌色を調整することができます。

🖼️🌄 風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

🖼️🌊 ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

🖼️📷 忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

🖼️🖼️ モノクロ

白黒写真になります。

🖼️👤 ユーザー設定1～3

「ポートレート」や「風景」、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます。登録されていないときは、「オート」の初期設定と同じ特性で撮影されます。

ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容〔**シャープネス**〕〔**コントラスト**〕などを初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。〔**モノクロ**〕の調整については、113ページを参照してください。

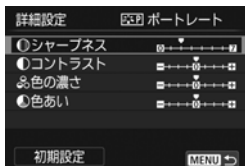


1 <▼> ボタンを押す

➡ スタイル選択画面が表示されます。

2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- 〔**シャープネス**〕などの項目を選び、〈SET〉を押します。



4 内容を設定する

- <◀><▶> を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
 - <MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が、青色で表示されます。



設定内容とその効果

🔍 シャープネス

被写体の鮮鋭度（シャープネス）の度合いが調整できます。

初期設定よりも被写体の鮮鋭度を弱くしたいときは、**0** 側に設定します。**0** に近づけるほど柔らかい（ぼやけた）感じの写真になります。

逆に被写体の鮮鋭度を強くしたいときは、**7** 側に設定します。**7** に近づけるほど硬い（シャープな）感じの写真になります。

📊 コントラスト

写真の明るい部分と暗い部分の明暗差（コントラスト）や、色のメリハリの強さが調整できます。

初期設定よりもコントラストを弱くしたいときは、マイナス側に設定します。**■** に近づけるほど全体的におとなしい感じの写真になります。

逆にコントラストを強くしたいときは、プラス側に設定します。**+** に近づけるほど全体的にくっきりした感じの写真になります。

🎨 色の濃さ

写真全体の色の濃さが調整できます。

初期設定よりも薄い発色にしたいときは、マイナス側に設定します。

■ に近づけるほど全体的に色の薄い写真になります。

逆に濃い発色にしたいときは、プラス側に設定します。**+** に近づけるほど全体的に色の濃い写真になります。

👤 色あい

肌の色あいが調整できます。

初期設定よりも肌色を赤めにしたいときは、マイナス側に設定します。

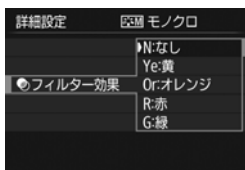
■ に近づけるほど肌の色あいが赤くなります。

逆に肌の色あいを赤色寄りにしたくないときは、プラス側に設定します。**+** に近づけるほど肌の色あいが黄色寄りになります。

モノクロの調整

前のページで説明した「シャープネス」と「コントラスト」の他に、「フィルター効果」「調色」を設定することができます。

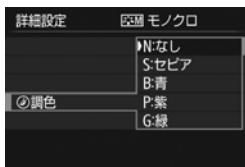
フィルター効果



フィルター効果を使うと、同じモノクロ写真でも、白い雲や木々の緑を強調した写真にすることができます。

フィルター	効果例
N : なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye: 黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or: オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R : 赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G : 緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

調色

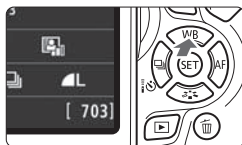


調色を設定して撮影すると、色の付いたモノクロ写真にすることができます。より印象的な写真を撮影したいときに有効です。

「N:なし」「S:セピア」「B:青」「P:紫」「G:緑」から選ぶことができます。

WB: 明かりにあわせて撮影する 応用

白いものが白く写るように、色あいを補正する機能を、ホワイトバランス (WB) といいます。通常は **[AWB]** (オート) で適切なホワイトバランスが得られます。**[AWB]** で自然な色あいにならないときは、明かりの種類にあわせてホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。



- 1 **〈▲ WB〉 ボタンを押す**
→ **[ホワイトバランス]** が表示されます。

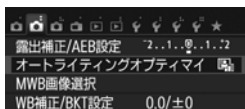


- 2 **ホワイトバランスを選ぶ**
 - 項目を選び、〈SET〉を押します。
 - 〈☀〉〈🏠〉〈☁〉〈🌧〉〈⚡〉を選んで表示される「約****K」(K:ケルビン) は、設定される色温度です。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

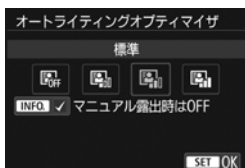
撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では、[標準] に設定されています。JPEG画像は、撮影時に補正されます。

かんたん撮影ゾーンでは、[標準] に自動設定されます。



1 [オートライティングオプティマイザ] を選ぶ

- [CAMERA 2] タブの [オートライティングオプティマイザ] を選び、〈SET〉を押します。



2 補正内容を設定する

- 内容を選び 〈SET〉を押します。

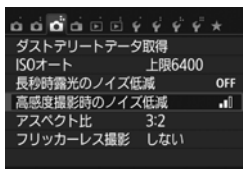
3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

MENU ノイズ低減機能を設定する 応用

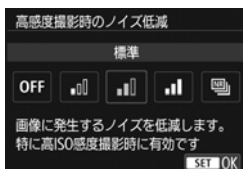
高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部(暗部)のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。



1 【高感度撮影時のノイズ低減】を選ぶ

- **[3]** タブの「高感度撮影時のノイズ低減」を選び、**<SET>**を押します。



2 レベルを設定する

- 低減レベルを選び **<SET>**を押します。

● [] : マルチショットノイズ低減機能]

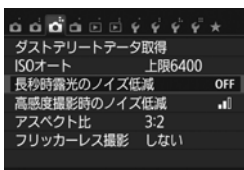
【強め】より、高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画質が記録されます。

3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

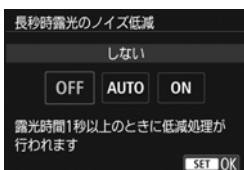
長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、ノイズを低減することができます。



1 [長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ

- [CAMERA] タブの [長秒時露光のノイズ低減] を選び、<SET>を押します。



2 低減内容を設定する

- 内容を選び <SET>を押します。

● [自動]

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この設定で十分な効果が得られます。

● [する]

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。[自動] で検出できないノイズがあったときに [する] で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

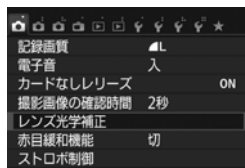
3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

MENU レンズの周辺光量と収差を補正する

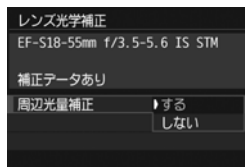
レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」、レンズの特性によって起こる画像のゆがみを「歪曲収差」といいますが、これらの現象を補正することができます。初期状態では、周辺光量補正、色収差補正は「する」、歪曲収差補正は「しない」に設定されています。

周辺光量補正



1 「[レンズ光学補正]」を選ぶ

- [📷1] タブの「[レンズ光学補正]」を選び、〈SET〉を押します。



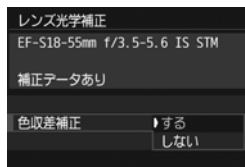
2 補正内容を設定する

- 装着レンズの「[補正データあり]」が表示されていることを確認します。
- 「[周辺光量補正]」を選び〈SET〉を押します。
- 「[する]」を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

色収差補正



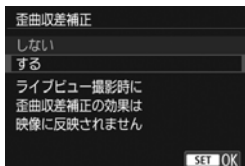
1 補正内容を設定する

- 装着レンズの「[補正データあり]」が表示されていることを確認します。
- 「[色収差補正]」を選び〈SET〉を押します。
- 「[する]」を選び〈SET〉を押します。

2 撮影する

- 色収差が補正された画像が記録されます。

歪曲収差補正



1 補正内容を設定する

- 装着レンズの「補正データあり」が表示されていることを確認します。
- 「歪曲収差補正」を選び〈SET〉を押します。
- 「する」を選び〈SET〉を押します。

2 撮影する

- 歪曲収差が補正された画像が記録されます。

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正を行うためのデータがレンズ約30本分登録されています。補正「する」を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正が行われます。

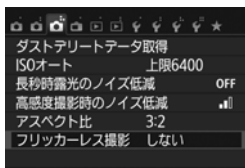
EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.196）を参照してください。

なお、補正データが内蔵されているレンズは、カメラに補正データを登録する必要はありません。

MENU フリッカーの影響を低減する 応用

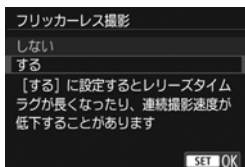
蛍光灯などの光源下で、速いシャッター速度で撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。

この機能を利用すると、カメラが光源の点滅の周期を検知し、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 [フリッカーレス撮影] を選ぶ

- [📷3] タブの [フリッカーレス撮影] を選び、<SET>を押します。



2 [する] を選ぶ

- [する] を選び <SET>を押します。

3 撮影する

- フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

5

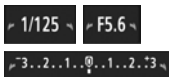
撮影目的にあわせた 応用撮影



応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内に露出値が4秒間 (0.4) 表示されます。
- 各撮影モードで設定できる機能は、170ページを参照してください。

電子ダイヤルガイドについて



シャッター速度、絞り数値、露出補正などを設定するときに表示される〈〉は、〈〉を回して設定することを示しています。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

* 〈P〉は、Program（プログラム）の略です。

* AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➔ ピントが合うと、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➔ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内に表示されます。



3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

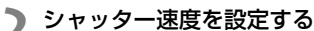
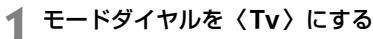
© 2006 The Authors

* 〈Tv〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



動きを止めた写真

(遅いシャッター速度：1/30秒) (速いシャッター速度：1/2000秒)



- シャッター速度は、を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。



- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したシャッター速度で撮影されます。

Av: ピントの合う範囲を変える

背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う範囲を調整した写真は、モードダイヤルの〈Av〉（絞り優先AE）を使って撮影します。

* 〈Av〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。



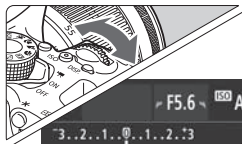
背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値：F32）



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 数値が大きいほどピントの合う範囲が前後に広く（深く）なります。
- 数値は、を右に回すと大きくなり（絞る）、左に回すと小さくなります（開ける）。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り数値で撮影されます。

M: 露出を自分で決めて撮る

シャッター速度と絞り数値を自由に組み合わせて撮影することができます。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にして、自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

* 〈M〉は、Manual（マニュアル）の略です。



1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ISO感度を設定する（p.108）



〈Av□〉 + 〈〉

3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈Av□〉ボタンを押しながら〈〉を回して設定します。



露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➔ ファインダー内に露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

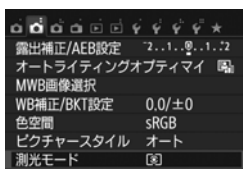
5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±2段を超えときは、ファインダー内の露出レベル表示の端が〈〉または〈〉の表示になります（液晶モニターの露出レベル表示は、±3段を超えると、〈〉または〈〉の表示になります）。

☑ 明るさの測り方を変える 応用

被写体の明るさの測り方（測光モード）を、4種類の中から選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。

なお、かんたん撮影ゾーンでは、測光モードが自動設定されます。



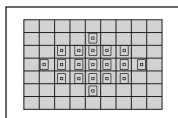
1 [測光モード] を選ぶ

- [📷2] タブの[測光モード]を選び、<SET>を押します。



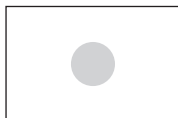
2 測光モードを設定する

- 項目を選び<SET>を押します。



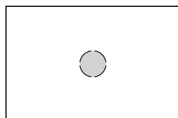
☑ 評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。



☑ 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。おおよそ左図の灰色部分が標準露出になるように測光が行われます。



☑ スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。おおよそ左図の灰色部分が標準露出になるように測光が行われます。上級者向けの測光モードです。



☐ 中央部重点平均測光

画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。経験豊富な上級者向けの測光モードです。

自分の好みに明るさを調整する 応用

ストロボを使用しないときの撮影結果が、思い通りの明るさになっていないときに使用します。この機能は、〈M〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±5段です。

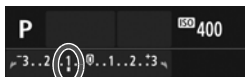
1 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして (ø4)、ファインダー内、または液晶モニターで露出レベル表示を確認します。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



2 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは、〈Av $\frac{1}{2}$ 〉ボタンを押しながら (ø5) を右に回します（プラス補正）。
撮影結果が明るいときは、〈Av $\frac{1}{2}$ 〉ボタンを押しながら (ø5) を左に回します（マイナス補正）。

3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を (ø6) の位置に戻します。

MENU 明るさを自動的に変えて撮る 応用

露出補正の応用機能で、1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的に明るさの異なる3枚の写真を撮影し、あとで一番好ましい明るさの写真を選ぶことができます。

この機能を使った撮影のことを、AEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケットング）撮影といいます。



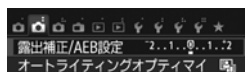
標準露出



暗くなるよう補正
(マイナス補正)

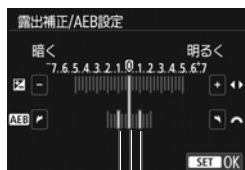


明るくなるよう補正
(プラス補正)



1 【露出補正/AEB設定】を選ぶ

- [📷2] タブの【露出補正/AEB設定】を選び、<SET>を押します。



AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- <🔧> を回すとAEBレベルが設定できます。
- <◀> <▶> を押すと露出補正量が設定できます。AEBと併用するときは、露出補正值を中心にAEB撮影が行われます。
- <SET> を押すと設定されます。
- <MENU> ボタンを押してメニュー画面を終了すると、液晶モニターにAEBレベルが表示されます。



3 撮影する

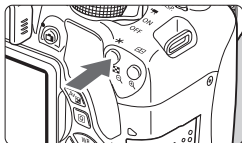
- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

＊ 明るさを固定して撮る 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈＊〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➔ 露出値が表示されます。



2 〈＊〉ボタンを押す (㊦4)

- ➔ ファインダー内に〈＊〉が表示され、露出が固定 (AEロック) されます。
- 〈＊〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

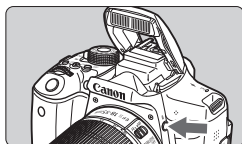


3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈＊〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

⚡ 内蔵ストロボを使って撮る

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを上げてシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈P〉では、手ブレしにくいシャッター速度（1/60～1/200秒）が自動設定されます。



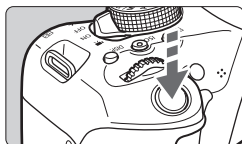
1 〈⚡〉 ボタンを押す

- 応用撮影ゾーンでは〈⚡〉ボタンを押すと、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「⚡buSY」、液晶モニターに「BUSY⚡」が表示されます。



2 シャッターボタンを半押しする

- ファインダーの左下に〈⚡〉が表示されていることを確認します。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

内蔵ストロボ撮影できる距離の目安

(約・m)

ISO感度 (p.108)	EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM, EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM, EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM		
	広角側		望遠側
	F3.5	F4	F5.6
100	1～3.4	1～3	1～2.1
400	1～6.9	1～6	1～4.3
1600	1.7～13.7	1.5～12	1.1～8.6
6400	3.4～27.4	3～24	2.1～17.1

* 高ISO感度設定時に撮影距離が遠いとき、被写体条件などによっては、適正な露出が得られないことがあります。

6

液晶モニターを見ながら 撮影する（ライブビュー撮影）

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

- カメラを手にとって液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。



リモートライブビュー撮影について

EOS用ソフトウェアのEOS Utility(p.194)がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書(p.196)を参照してください。

液晶モニターを見ながら撮影する ■



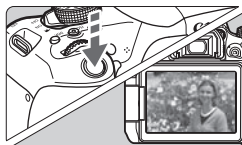
1 ライブビュー映像を表示する

-  ボタンを押します。
- 液晶モニターに映像が表示されます。
〈A+〉モード時は、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます。
- 初期設定では、コンティニュアスAFが働きます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。



2 ピントを合わせる

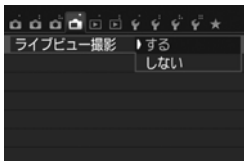
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式 (p.137) でピント合わせが行われます。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
-  ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

ライブビュー撮影ができないときは



〔:ライブビュー撮影〕を〔する〕に設定します。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安

(約・枚)

温度	常温 (+23℃)	低温 (0℃)
ストロボ撮影なし	200	170
50%ストロボ撮影	180	150

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E17 使用、CIPA (カメラ映像機器工業会) の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E17 でライブビュー撮影できる時間は、常温 (+23℃) : 合計約1時間30分です。

⚠ 警告

長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

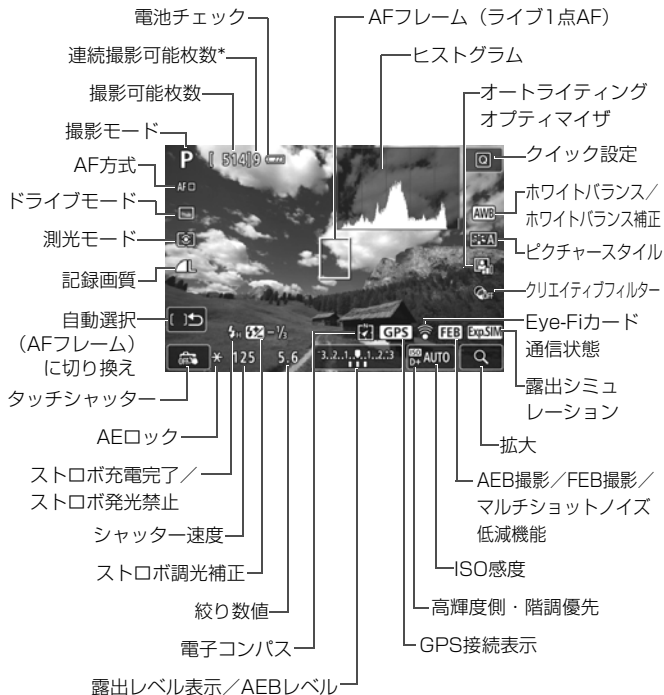
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。



カメラを強い光源 (太陽や人工的な強い光源など) に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

情報表示について

● 〈INFO〉 ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



* 連続撮影できる枚数が9枚以下になると、数値が表示されます。

フィルター効果を付けて撮影する

ライブビュー映像を見ながら、フィルター効果（ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風）を付けた画像を撮影することができます。この機能をクリエイティブフィルターといいます。

なお、撮影時はフィルター効果ありの画像のみ保存されます。フィルター効果なしの画像も保存したいときは、フィルター効果なしで撮影を行い、後から画像に効果を付けて別画像として保存します。

1 撮影モードを〈〉〈〉〈〉以外にする

2 〈〉ボタンを押す（10）
➔ クイック設定の状態になります。

3 [Off] を選ぶ

- 〈〉〈〉を押して画面の右側に表示された [Off]（クリエイティブフィルター）を選びます。



4 フィルター効果を選ぶ

- 〈〉〈〉を押してフィルター効果を選びます。
➔ フィルター効果が反映された映像が表示されます。





5 フィルター効果を調整する

- 〈INFO〉 ボタンを押します（ジオラマ風を除く）。
- 〈◀〉〈▶〉を押してフィルター効果を調整し、〈SET〉を押します。
- ジオラマ風は 〈SET〉を押し、〈▲〉〈▼〉を押して、くっきり見せたい部分（白枠）を移動させます。

6 撮影する

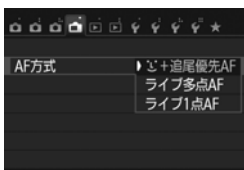
- ➡ フィルター効果が付いた画像が撮影されます。

AFでピントを合わせる（AF方式）

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AF方式には、**[（顔）+追尾優先AF]**、**[ライブ多点AF]**（p.138）、**[ライブ1点AF]**（p.140）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを**〈MF〉**にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.142）。



AF方式を選ぶ

- **[]** タブの**[AF方式]** で選びます。
- AF方式を選び、**〈SET〉** を押します。
- ライブビュー映像表示中に**〈Q〉** ボタンを押すと、クイック設定でAF方式を選ぶこともできます。

（顔）+追尾優先AF：AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム**〈〉**も動いて顔を追尾します。



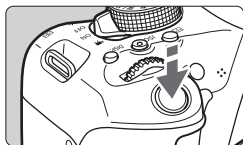
1 ライブビュー映像を表示する

- **〈〉** ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターに映像が表示されます。

2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム**〈〉**が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは**〈〉**が表示されます。**〈◀〉〈▶〉**でピントを合わせたい顔に**〈〉**を合わせます。
- 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外のときは**〈〉**が表示されます。

- 顔が検知できないときや、画面にタッチして顔または被写体を選ばなかったときは、ライブ多点AFの自動選択（p.138）に切り換わります。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.132）。

ライブ多点AF：AF（ ）

最大49点のAFフレームを使用した広いエリアでピントを合わせることができます（自動選択）。また、そのエリアを9つのゾーンに分けてピントを合わせることでもあります（ゾーン選択）。



エリア枠

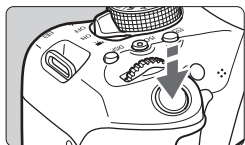
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈〉ボタンを押します。
- 液晶モニターに映像が表示されます。



2 AFフレームを選ぶ 応用

- 〈SET〉 または 〈AF-ON〉 ボタンを押すたびに、自動選択とゾーン選択が切り換わります。なお、かんたん撮影ゾーンでは、自動選択に自動設定されます。
- 〈AF-ON〉 十字キーでゾーンを選択します。もう一度 〈SET〉 または 〈AF-ON〉 ボタンを押すと、中央のゾーンに戻ります。
- 画面にタッチして、ゾーンを選択することもできます。ゾーン選択時に、画面の [AF-ON] をタッチすると、自動選択に切り換わります。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➔ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➔ ピントが合わないときは、エリア枠がオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します (p.132)。

ライブ1点AF: AF □

1点のAFフレームでピント合わせを行います。狙った被写体にピントを合わせたいときに効果的です。



AFフレーム

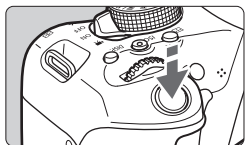
1 ライブビュー映像を表示する

-  ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム  が表示されます。
- 動画撮影時、**[動画サーボAF]** が **[する]** に設定されているときは、AFフレームが大きく表示されます。



AFフレームを移動する

- **〈〉**十字キーを押して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを動かします(画面の一番端までは動きません)。
- **〈〉**または**〈〉**ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 画面にタッチして、AFフレームを動かすこともできます。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します (p.132)。

📷 タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。すべての撮影モードで行うことができます。



1 ライブビュー映像を表示する

-  ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターに映像が表示されます。



2 タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の  にタッチします。タッチするたびに、 と  が交互に切り換わります。
-  (タッチシャッター：する)
タッチでピント合わせから撮影まで行います。
-  (タッチシャッター：しない)
タッチでピントを合わせる位置を選択できます。そのあと、シャッターボタンを押して撮影します。

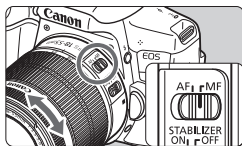


3 画面にタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- ➔ 設定されているAF方式 (p.137～140) でタッチした位置でピント合わせが行われます。**[ライブ多点AF]** 設定時は、**[ライブ1点AF]** に切り換わります。
- ➔ ピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

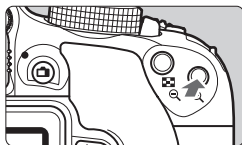
MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- レンズのフォーカスリングを回して、おまかにピントを合わせておきます。



2 拡大表示枠を表示する

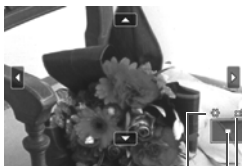
- 〈Q〉ボタンを押します。
→ 拡大表示枠が表示されます。
- 画面の〔Q〕をタッチして拡大表示することもできます。



3 拡大表示枠を移動する

- ピントを合わせたい場所に、〈◇〉十字キーで拡大表示枠を移動します。
- 〈SET〉または〈⏏〉ボタンを押すと、画面中央に戻ります。

拡大表示枠



4 映像を拡大する

- 〈Q〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換ります。

→ 1倍 → 5倍 → 10倍 → 通常表示

AEロック
拡大表示位置
拡大率

5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈Q〉ボタンを押して通常表示にします。

6 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します (p.132)。



7

動画を撮影する



電源スイッチを〈ON〉にすると、動画撮影ができるようになります。なお、記録形式はMP4形式です。

- 動画が記録できるカードについては、7ページを参照してください。
- カメラを手に持って動画撮影を行うと、手ブレにより、鮮明な映像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。
- 手持ち撮影時のカメラの持ち方については、66ページを参照してください。



Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

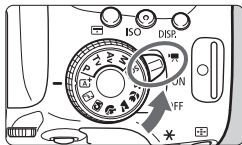


📺 動画を撮影する

撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします。

自動露出で撮影する

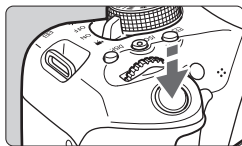
撮影モードが〈M〉以外のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。



1 電源スイッチを〈📺〉にする

➔ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

2 撮影モードを〈M〉以外にする



3 ピントを合わせる

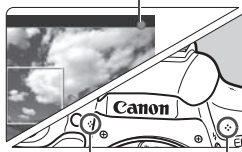
- 動画撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせます (p.137～140、142)。
- 初期設定では、[動画サーボAF: する] に設定されていますので、常時ピント合わせが行われます。



動画撮影中

4 動画を撮影する

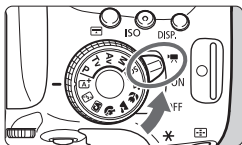
- 〈📺〉ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈📺〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。
- ➔ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。
- ➔ 音声は内蔵マイクで記録されます。



内蔵マイク

マニュアル露出で撮影する

撮影モードが〈M〉のときは、任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

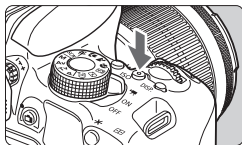


1 電源スイッチを〈ON〉にする

➔ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

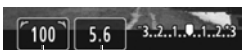


2 モードダイヤルを〈M〉にする



3 ISO感度を設定する

● 〈ISO〉 ボタンを押し、〈◀〉〈▶〉または〈⚙〉でISO感度を選びます。



〈⚙〉
〈Av/1/2〉 + 〈⚙〉

4 シャッター速度と絞り数値を設定する

● シャッター速度は、〈⚙〉を回して設定します。設定できるシャッター速度は、フレームレート〈FPS〉により異なります。

・ 29.97P、25.00P、23.98P : 1/4000～1/30秒

・ 59.94P、50.00P : 1/4000～1/60秒

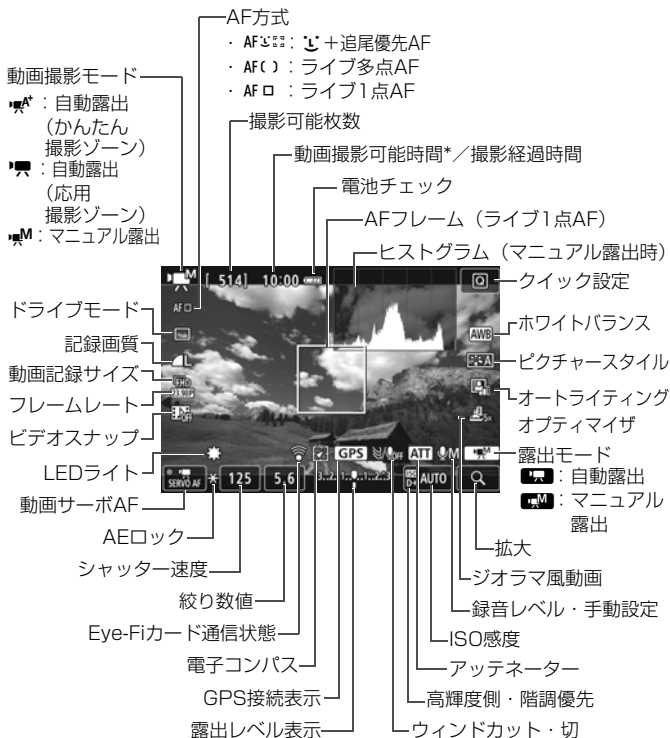
● 絞り数値は、〈Av/1/2〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回して設定します。

5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出で撮影する』の手順3、4と同じです (p.146)。

情報表示について

- 〈INFO〉 ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



* 1回の撮影可能時間です。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

(約)

動画記録 サイズ				カードごとの総記録時間			ファイル サイズ
				4GB	8GB	16GB	
 [1920× 1080]	  	標準	17分	35分	1時間10分	216MB/分	
	 	軽量	43分	1時間26分	2時間53分	87MB/分	
 [1280× 720]	 	標準	20分	40分	1時間21分	187MB/分	
	 	軽量	2時間5分	4時間10分	8時間20分	30MB/分	
 [640× 480]	 	標準	57分	1時間55分	3時間50分	66MB/分	
	 	軽量	2時間43分	5時間26分	10時間53分	23MB/分	

● ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

動画撮影を開始してから、ファイルサイズが4GBに達する約30秒前になると、動画撮影画面に表示されている撮影経過時間が点滅します。そのまま撮影を継続し、4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成され、点灯表示に戻ります。

なお、再生時は、動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● 撮影時間の制限について

1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

⚠ 警告

長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。



8

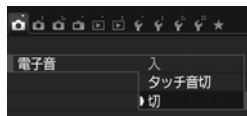
知っていると便利な機能

- 電子音が鳴らないようにする (p.154)
- 撮影直後の画像表示時間を設定する (p.154)
- 電源が切れるまでの時間を設定する (p.155)
- 液晶モニターの消灯/点灯の設定 (p.155)
- カメラの機能設定を初期状態に戻す (p.156)

普段使う上で便利な機能

MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときや、セルフタイマー撮影時、画面にタッチして操作したときに、電子音が鳴らないようにすることができます。



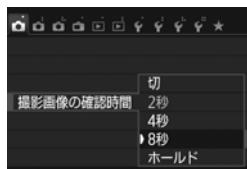
[1] タブの [電子音] を選び、<SET> を押します。[切] を選び <SET> を押します。

画面にタッチしたときの電子音だけを鳴らないようにするときは [タッチ音切] を選びます。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を変更することができます。[切] に設定すると、撮影直後に画像は表示されません。[ホールド] に設定すると、[オートパワーオフ] の時間まで画像が表示されます。

なお、画像表示中にシャッターボタン半押しなどのカメラ操作を行うと、表示が終了します。



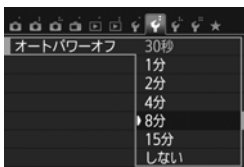
[1] タブの [撮影画像の確認時間] を選び、<SET> を押します。内容を選び <SET> を押します。

MENU 電源が切れるまでの時間を設定する

カメラを操作しない状態で放置したときに、節電のために電源が切れるまでの時間を変更することができます。この機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。

【しない】に設定したときは、節電のために電源をこまめに切るか、〈DISP.〉ボタンを押して液晶モニターの表示を消すことをおすすめします。

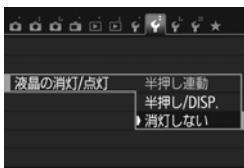
なお、【しない】の設定でもカメラを30分間放置すると、液晶モニターが消灯します。液晶モニターを点灯するときには、〈DISP.〉ボタンを押してください。



【F2】タブの【オートパワーオフ】を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

MENU 液晶モニターの消灯/点灯の設定

撮影機能の設定状態（p.24）の表示が、シャッターボタンの半押し（または〈*〉ボタン、絞り込みボタンを押す）に連動して、消えたり点いたりしないようにすることができます。



【F2】タブの【液晶の消灯/点灯】を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

- 【半押し連動】：半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。
- 【半押し/DISP.】：半押しすると表示が消え、指を離しても表示されません。〈DISP.〉ボタンを押すと表示されます。
- 【消灯しない】：半押ししても表示は消えません。消したいときは、〈DISP.〉ボタンを押します。

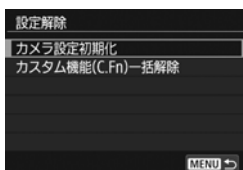
MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。この操作は、応用撮影ゾーンで行うことができます。



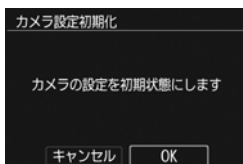
1 【設定解除】を選ぶ

- [F4] タブの【設定解除】を選び、〈SET〉を押します。



2 【カメラ設定初期化】を選ぶ

- 【カメラ設定初期化】を選び〈SET〉を押します。



3 【OK】を選ぶ

- 【OK】を選び〈SET〉を押します。
→ 【カメラ設定初期化】を行うと、カメラの設定が157～158ページのようになります。

? こんなときは

- すべての設定を初期状態に戻したい

上記操作を行ったあと、[F4: 設定解除] で【カスタム機能 (C.Fn) 一括解除】を選ぶと、設定されているカスタム機能をすべて解除できます。

撮影機能

〈SCN〉モード	多 (キッズ)
AF動作	ワンショットAF
測距エリア選択モード	19点自動選択AF
ドライブモード	□ (1枚撮影)
測光モード	☒ (評価測光)
ISO感度	AUTO (オート)
ISOオート	上限6400
露出補正/AEB	解除
ストロボ調光補正	0 (ゼロ)
赤目緩和機能	切
フリッカーレス撮影	しない
アスペクト比	3:2
ファインダー内表示	フリッカー検知のみ表示
カスタム機能	そのまま
ストロボ制御	
ストロボの発光	する
E-TTL II 調光方式	評価調光
Avモード時のストロボ同調速度	自動

画像記録

記録画質	■ L
ピクチャースタイル	オート
オートライティングオブティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色収差補正	する／登録レンズ保持
歪曲収差補正	しない／登録レンズ保持
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB (オート)
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
長秒時露光のノイズ低減	しない
高感度撮影時のノイズ低減	標準
画像番号	通し番号
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定

オートパワーオフ	30秒
電子音	入
カードなしリリース	する
撮影画像の確認時間	2秒
AFフレーム表示	しない
ヒストグラム	輝度
 での画像送り	 (10枚)
縦位置画像回転表示	する  
液晶の明るさ	    
液晶の消灯/点灯	半押し連動
日付/時刻/エリア	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
撮影機能画面の色	1
機能ガイド	表示する
タッチ操作	標準
著作権情報	そのまま
HDMI機器制御	切
Eye-Fi通信	しない
マイメニューの内容	そのまま
マイメニューから表示	しない
Wi-Fi/NFC	使わない
Wi-Fi機能	そのまま

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影	する
AF方式	 +追尾優先AF
コンティニュアスAF	する
タッチシャッター	しない
グリッド	表示しない
測光タイマー	8秒

動画撮影

AF方式	 +追尾優先AF
動画サーボAF	する
動画記録中のシャッターボタンAF	ワンショットAF
グリッド	表示しない
測光タイマー	8秒
動画記録サイズ	NTSC :  29.97P (標準) PAL :  25.00P (標準)
録音	オート
ビデオスナップ	撮影しない

9

画像の再生

この章では、撮影した画像や動画の基本的な再生方法について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 見たい画像を素早く探す

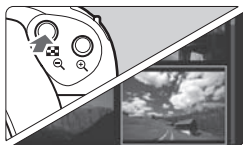
📺 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚／9枚／36枚／100枚の画像を表示することができます。



1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。



2 インデックス表示にする

- 〈📺・Q〉 ボタンを押します。
→ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- さらに〈📺・Q〉 ボタンを押すと、9枚→36枚→100枚表示になります。
- 〈Q〉 ボタンを押すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

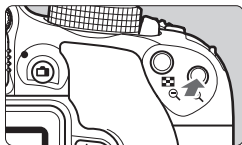


3 画像を選ぶ

- 〈⬆️⬇️⬆️〉 十字キーでオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈🔍〉 を回すと、1画面分先、または前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。



拡大表示位置

1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈Q〉ボタンを押します。
- ➔ 拡大表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈Q・Q〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。



2 表示位置を移動する

- 〈◇〉十字キーを操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。



👉 画面にタッチして再生する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、いろいろな再生を行うことができます。まず、**〈▶〉** ボタンを押して画像を再生します。

画像を送る



指1本でドラッグする

- 1枚表示のときは「**指1本**」で液晶モニターに触れます。指を左または右に動かすと1枚ずつ画像が送られます。左に動かすと新しい画像、右に動かすと古い画像が表示されます。
- インデックス表示のときも「**指1本**」で液晶モニターに触れます。指を上または下に動かすと1画面ずつ画像が送られます。上に動かすと新しい画像、下に動かすと古い画像が表示されます。画像を選んで、オレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）



指2本でドラッグする

液晶モニターに「**指2本**」で触れます。指を左または右に動かすと、**[▶2]** タブの **[🔍での画像送り]** で設定されている方法で、画像を飛ばして表示することができます。

画像を縮小表示する（インデックス表示）



2本の指を閉じる

指2本を広げた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を閉じます。

- 指を閉じるたびに、1枚表示からインデックス表示になります。
- 画像を選んでオレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

画像を拡大表示する



2本の指を開く

指2本を閉じた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を開きます。

- 指を開くたびに、拡大されます。
- 最大約10倍に拡大できます。
- 指を動かすと、表示位置を移動することができます。
- 指を閉じると縮小します。
- [↶] をタッチすると、1枚表示に戻ります。

🔊 動画を再生する



1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉 を押して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈SET 映像〉が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画のときは〈SET 映像〉が表示されます。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。



3 1枚表示の状態で 〈SET〉 を押す

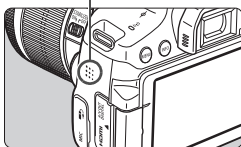
- 画面の下に動画再生パネルが表示されます。



4 動画を再生する

- [▶] (再生) を選び 〈SET〉 を押します。
→ 動画再生が始まります。
- 再生中に 〈SET〉 を押すと、再生が一時停止します。
- 〈音量〉 を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

スピーカー

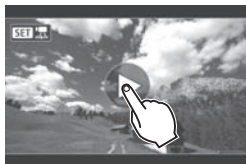


動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀ フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
🎵 BGM選択*	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます。
✂ 編集	編集画面を表示します。
	再生位置
mm' ss"	再生時間 (mm' : 分, ss" : 秒)
🔊 音量	〈🔊〉を回すと、内蔵スピーカー (p.164) の音量を調整することができます。
MENU ↶	〈MENU〉ボタンを押すと、1枚表示の状態に戻ります。

* BGMを設定すると、動画に録音されている音声は再生されません。

タッチパネルで再生する



画面中央の【▶】をタッチする

- ➡ 動画再生が始まります。
- 画面左上の〈SET 〽️〉をタッチすると、動画再生パネルが表示されます。
- 再生中に画面をタッチすると、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。

消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクトをかけた画像は消去されません。

- 1** 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。
-

1枚ずつ消去



1 消去したい画像を再生する

2 〈〉ボタンを押す

→ 消去メニューが表示されます。



3 消去する

- [消去] を選び 〈〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

10

資料

各撮影モードで設定できる機能一覧を説明しています。また、「カメラが故障したのかな？」と思ったら、この章を参考にしてカメラをチェックしてください。



認証マークについて

〔4：認証マーク表示〕を選び〈SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

各撮影モードで設定できる機能一覧

静止画撮影時（かんたん撮影ゾーン）

●：自動設定 ○：選択可能 □：選択不可／無効

機能									SCN						
全記録画質の選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ ^{*1}	○ ^{*1}	○ ^{*1}
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	手動設定														
ピクチャー スタイル	自動設定/オート	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN	SCN
	任意設定														
エフェクトショット ^{*1}				○											
雰囲気を選んで撮影				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
明かりや状況にあわせて撮影					○	○	○	○	○						
背景ぼかし設定				○											
色あい										○	○				
クリエイティブフィルター ^{*1*2}		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
ホワイト バランス	オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	プリセット														
	マニュアル														
	補正/ブラケティング														
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
レンズ 光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歪曲収差補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
長秒時露光のノイズ低減															
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高輝度側・階調優先															
フリッカーレス撮影 ^{*3}		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Adobe RGB														
測光モード	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
	中央部重点平均測光										●				
	測光モード選択														

*1：RAW+、RAWは選択できません。

*2：ライブビュー撮影時のみ設定できます。

*3：ファインダー撮影時のみ機能します。

機能		A+	1/2	CA	1/2	1/2	1/2	1/2	SCN					
		多	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	多	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2
AF動作 (ファインダー撮影)	ワンショットAF				●	●	●		●	●	●	●	●	●
	AIサーボAF							●	●					
	AIフォーカスAF	●	●	●										
AF動作 (ライブビュー撮影)	ワンショットAF	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
	測距エリア選択モード													
	AFフレーム選択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
AF	AF補助光	●		●	●		●		●	●	●	●	●	●
	コンティニュアスAF ²	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト													
	露出補正													
	AEB													
	AEロック													
	被写界深度確認													
ドライブモード	1枚撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連続撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	静音1枚撮影 ³	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	静音連続撮影 ³	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光	○		○	○		○		○		●			
	手動発光	○		○	○		○		○	○			○	
	発光禁止	○	●	○	○	●	○	●	○	○	●		○	●
	赤目緩和	○		○	○		○		○	○		○	○	
	FEロック ³													
	ストロボ調光補正													
	ワイヤレス制御													
外部ストロボ	機能設定													
	カスタム機能設定													
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
アスペクト比														
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
機能ガイド		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

静止画撮影時（応用撮影ゾーン）

●：自動設定 ○：選択可能 □：選択不可／無効

機能		P	Tv	Av	M
全記録画質の選択		○	○	○	○
ISO感度	自動設定/オート	○	○	○	○
	手動設定	○	○	○	○
ピクチャースタイル	自動設定/オート	○	○	○	○
	任意設定	○	○	○	○
エフェクトショット					
雰囲気を選んで撮影					
明かりや状況にあわせて撮影					
背景ぼかし設定					
色あい					
クリエイティブフィルター ^{*1*2}		○	○	○	○
ホワイトバランス	オート	○	○	○	○
	プリセット	○	○	○	○
	マニュアル	○	○	○	○
	補正/ブラケティング	○	○	○	○
オートライティングオブティマイザ		○	○	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○
	歪曲収差補正	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減		○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		○	○	○	○
高輝度側・階調優先		○	○	○	○
フリッカーレス撮影 ^{*3}		○	○	○	○
色空間	sRGB	○	○	○	○
	Adobe RGB	○	○	○	○
測光モード	評価測光	○	○	○	○
	測光モード選択	○	○	○	○

*1：RAW+L、RAWは選択できません。

*2：ライブビュー撮影時のみ設定できます。

*3：ファインダー撮影時のみ機能します。

機能		P	Tv	Av	M
AF動作 (ファインダー撮影)	ワンショットAF	○	○	○	○
	AIサーボAF	○	○	○	○
	AIフォーカスAF	○	○	○	○
AF動作 (ライブビュー撮影)	ワンショットAF	●	●	●	●
AF	測距エリア選択モード	○	○	○	○
	AFフレーム選択	○	○	○	○
	AF補助光	○	○	○	○
	コンティニュアスAF ^{*2}	○	○	○	○
露出	プログラムシフト	○			
	露出補正	○	○	○	
	AEB	○	○	○	○
	AEロック	○	○	○	*4
	被写界深度確認	○	○	○	○
ドライブモード	1枚撮影	○	○	○	○
	連続撮影	○	○	○	○
	静音1枚撮影 ^{*3}	○	○	○	○
	静音連続撮影 ^{*3}	○	○	○	○
	セルフタイマー	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光				
	手動発光	○	○	○	○
	発光禁止	○	○	○	○
	赤目緩和	○	○	○	○
	FEロック	○	○	○	○
	ストロボ調光補正	○	○	○	○
	ワイヤレス制御	○	○	○	○
外部ストロボ	機能設定	○	○	○	○
	カスタム機能設定	○	○	○	○
ライブビュー撮影		○	○	○	○
アスペクト比		○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○
機能ガイド		○	○	○	○

*4：ISOオート時は、ISO感度を固定することができます。

動画撮影時

●：自動設定 ○：選択可能 □：選択不可／無効

機能		動画											静止画		
		A ⁺	A ⁺	CA	📷	📷	📷	SCN	P	Tv	Av	M	📷 ^{*1}		
		📷 ^{A*}							📷 ^M			📷 ^{A*}	📷 ^M	📷 ^{A*}	📷 ^M
全記録画質の選択（動画）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
全記録画質の選択（静止画）													○	○	○
ビデオスナップ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ジオラマ風動画		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ ^{*2}	○ ^{*2}	○ ^{*2}
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	○
	手動設定											○			○
ピクチャー スタイル	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●	○	○
	任意設定								○	○	○	○		○	○
ホワイト バランス	オート	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●	○	○
	プリセット								○	○	○	○		○	○
	マニュアル								○	○	○	○		○	○
	補正								○	○	○	○		○	○
	ブラケティング													○	○
オートライティングオブティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●	○	○
レンズ 光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歪曲収差補正														
長秒時露光のノイズ低減															
高感度撮影時のノイズ低減															
高輝度側・階調優先									○	○	○	○		○	○
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
	Adobe RGB													○	○

*1：📷は、動画撮影時の静止画撮影を示しています。

*2：ジオラマ風の静止画が撮影されます。

機能		動画												静止画		
										SCN	P	Tv	Av	M		*1
測光モード																
AF	顔+追尾優先AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ多点AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ1点AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	手動ピント合わせ (MF)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	動画サーボAF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト															
	AEロック										○	○	○	*3	○	*3
	露出補正										○	○	○		○	
	AEB															
	被写界深度確認															
ドライブモード	1枚撮影														○	○
	連続撮影*4														○	○
	静音1枚撮影															
	静音連続撮影															
	セルフタイマー*4														○	○
内蔵ストロボ																
アスペクト比																
録音		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*3 : ISOオート時は、ISO感度を固定することができます。

*4 : 動画撮影開始前のみ機能します。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。

充電器のランプが点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色の充電ランプが点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください (p.32)。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください (p.32)。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください (p.33)。
- 電池を充電してください (p.30)。
- 〈DISP〉ボタンを押してください (p.57)。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

【バッテリー通信エラー：ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？】と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- 電池の出し入れを行ってください (p.32)。
- 電池の接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください (p.30)。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。[**43: バッテリー情報**]で電池の劣化状態を確認してください。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
 - ・ シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
 - ・ AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - ・ レンズの手ブレ補正機能を使う
 - ・ 液晶モニターを頻繁に使用する
 - ・ ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
 - ・ Eye-Fiカードの通信機能を有効にしているとき

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[**42: オートパワーオフ**]を[**しない**]にしてください (p.155)。
- [**42: オートパワーオフ**]を[**しない**]に設定していても、カメラを30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。〈DISP.〉ボタンを押すと液晶モニターが点灯します。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-Mレンズは装着できません (p.41)。

ファインダーが暗い

- 充電した電池をカメラに入れてください (p.30)。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください (p.33)。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください (p.33)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください (p.33、166)。
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください (p.46、101)。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、33ページ、188ページを参照してください。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にしてください (p.41)。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください (p.45～46)。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にして撮影してください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする (p.123)、ISO感度を上げる (p.108)、ストロボを使用する (p.130)、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。AIサーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません (p.94)。

画像に線状のノイズまたはモアレが写る

- 被写体により、画像に線状のノイズまたはモアレが記録されることがあります。特に以下の条件で発生しやすくなります。
 - ・ 細かい水平方向の縞模様や、格子模様の被写体など
 - ・ 太陽光や照明などの強い光源が撮影画面内にあるときや、撮影画面の近くにあるとき
 なお、このようなときは、以下の対応によりノイズやモアレの発生を低減することがあります。
 - ・ 撮影距離やズーム倍率を変えて、被写体の大きさを変える
 - ・ 強い光源が撮影画面に入らないように構図を変える
 - ・ レンズにフードを取り付けて、強い光がレンズに当たらないようにする
- TS-Eレンズを使用してシフトやティルトを行ったときは、画像に線状のノイズまたはモアレが記録されることがあります。

画像に横縞が写る／露出や色あいがおかしい

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、ファインダー撮影、ライブビュー撮影を行うと、横縞（ノイズ）や露出ムラが発生することがあります。また、露出（明るさ）や色あいが適切にならないことがあります。なお、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

連続撮影速度が遅い

- レンズの種類やシャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさなどにより、連続撮影速度が低下することがあります。
- [📷3：フリッカーレス撮影] が [する] の設定でフリッカー光源下で撮影を行うと、連続撮影速度がやや遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。また、シャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりもわずかに長くなることがあります（p.120）。
- [歪曲差補正] を [する] に設定したときは、連続撮影速度が低下します（p.119）。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、107ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

- [🔧4：カスタム機能 (C.Fn)] の [3：高輝度側・階調優先] が [1：する] に設定されているときは、ISO100に設定できません。[0：しない] に設定すると、ISO100が設定できるようになります。動画撮影時も同様です。

ISO感度 [H] (25600相当) が設定できない

- [🔧4: カスタム機能 (C.Fn)] の [3: 高輝度側・階調優先] が [1: する] に設定されているときは、[2: ISO感度拡張] を [1: する] に設定しても、ISO感度 [H] (25600相当) は選択できません。[3: 高輝度側・階調優先] を [0: しない] に設定すると、ISO感度 [H] が設定できるようになります。

オートライティングオプティマイザが設定できない

- [🔧4: カスタム機能 (C.Fn)] の [3: 高輝度側・階調優先] が [1: する] に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。[0: しない] に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります。

露出を暗めに補正したのに、明るく撮影される

- [📷2: オートライティングオプティマイザ] を [しない] に設定してください。[標準/弱め/強め] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります (p.115)。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出になるように、自動的にシャッター速度が遅くなります (スローシンクロ撮影)。シャッター速度が遅くならないようにするときは、[📷1: ストロボ制御] の [Avモード時のストロボ同調速度] を、[1/200-1/60秒自動] または [1/200秒固定] に設定してください。

内蔵ストロボが勝手に上がる

- 〈〉（ストロボ自動発光）が、初期設定されている撮影モードでは、必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります（〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉）。
- 〈〉〈〉モードのときは、暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが自動的に上がり、AF補助光が光ることがあります。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します。
- [ 1：ストロボ制御] の [外部ストロボカスタム機能設定] の [調光方式] が [TTL]（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します。

外部ストロボの調光補正ができない

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。外部ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- [ 1：ストロボ制御] の [Avモード時のストロボ同調速度] を [自動] に設定してください。

カメラを振ると小さな音がする

- カメラ内部の機構がわずかに動くときに小さな音がすることがあります。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します (p.133)。

ライブビュー撮影と動画撮影時に、白い H または赤い H が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈 H 〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈 H 〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影、または動画撮影が自動的に終了することを示しています。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。SDスピードクラス6「**CLASS 6**」以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが〈**M**〉以外のときは、ISO感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、〈M〉モードのときは、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

Wi-Fi 関連

Wi-Fiの設定ができない

- カメラとパソコン、プリンター、GPSレシーバー、テレビなどを、ケーブルで接続しているときは、Wi-Fiの設定ができません（[F1: Wi-Fi/NFC] が灰色で表示）。ケーブルを取り外してから、設定を行ってください。
- Wi-Fi/NFC機能 使用説明書を参照してください。

操作関連

タッチ操作時の電子音が、急に小さくなった

- スピーカーを、指でふさいでいないか確認してください (p.22)。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- かんたん撮影ゾーンと動画撮影モードでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください (p.49)。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー (「_」) になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります。

ファイル名の先頭文字が「MVI」になっている

- 動画ファイルです。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください (p.38)。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください (p.38)。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付／時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます。

【###】が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると【###】と表示されます。

液晶モニターの表示が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

【Eye-Fi設定】が表示されない

- 【Eye-Fi設定】は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ハイライト警告表示です。露出オーバーで白とびした部分が点滅します。

画像を消去できない

- プロテクトがかかっている画像は消去できません。

動画が再生できない

- パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販の外部マイクの使用をおすすめします。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈M〉モードで撮影してください (p.147)。

テレビに画像が表示されない

- HDMIケーブル、またはステレオAVケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- [43:ビデオ出力方式] の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください (テレビが対応している方式に合わせてください)。
- [41:Wi-Fi/NFC] が [使う] に設定されているときは、テレビとの接続ができません。[Wi-Fi/NFC] を [使わない] に設定してから、カメラとテレビをHDMIケーブル、またはステレオAVケーブルで接続し直してください。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えると、動画ファイルが複数作成されます (p.151)。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードリーダーに差ししても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、画像を取り込んでください (p.194)。

画像をリサイズできない/画像をトリミングできない

- JPEGの **S3** とRAW画像は、カメラでリサイズ処理やトリミングを行うことはできません。

画像に赤い枠が表示される

- [ 2 : AFフレーム表示] が [**する**] に設定されています。

画像に赤い枠が表示されない

- [ 2 : AFフレーム表示] を [**する**] に設定していても、下記の画像には表示されません。
 - ・マルチショットノイズ低減機能で撮影した画像 (p.116)
 - ・歪曲収差補正が行われた画像
 - ・〈 **SCN** 〉モードの 〈  〉 〈  〉 で撮影した画像
 - ・トリミングした画像
 - ・撮影後に、魚眼風のフィルター処理を行った画像

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音をする

- [**今すぐクリーニング** ] を選んだときは、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがあります (p.36)。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています。

ダイレクトプリントができない

- 以下の撮影モードまたは機能が設定されているときは、プリンターとの接続ができません。各設定を解除してから、カメラとプリンターをインターフェースケーブルで接続し直してください。
 - ・〈SCN〉モードの〈〉〈〉
 - ・マルチショットノイズ低減機能
 - ・[1: Wi-Fi/NFC] が[使う] に設定されているとき

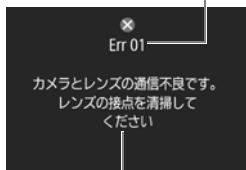
パソコン接続関連

パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェア (EOS DIGITAL Solution Disk/CD-ROM) をパソコンにインストールしてください (p.194)。
- [1: Wi-Fi/NFC] が[使う] に設定されているときは、パソコンとの接続ができません。[Wi-Fi/NFC] を[使わない] に設定してから、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し直してください。

エラー表示

エラー番号



原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	→ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用、電池の出し入れ (p.21、22、32)
02	カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	→ カード抜き差し、カード交換、カード初期化 (p.33、55)
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	→ カード交換、不要画像の消去、カード初期化 (p.33、166、55)
05	内蔵ストレージをポップアップできませんでした。電源を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作 (p.36)
06	センサークリーニングができませんでした。電源を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作 (p.36)
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、電池を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作、電池の出し入れ、純正レンズを使用する (p.36、32、41)

* 上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

11

使用説明書CD-ROMの見かた／ パソコンに画像を取り込む

この章では、カメラ使用説明書CD-ROMの見かた、パソコンに画像を取り込む方法、EOS DIGITAL Solution Disk (CD-ROM) に収録されている各ソフトウェアの概要、パソコンへのインストール方法、ソフトウェア使用説明書の見かたについて説明しています。



カメラ使用説明書



EOS DIGITAL Solution Disk
(ソフトウェア／ソフトウェア使用説明書)

カメラ使用説明書CD-ROMの見かた



カメラ使用説明書CD-ROM には、本製品に関連する使用説明書（PDFファイル）が収録されています。

カメラ使用説明書CD-ROMの見かた

各使用説明書（PDF ファイル）を見るためには、パソコンにAdobe Reader（バージョン6.0以上）がインストールされている必要があります。 Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードすることができます。パソコンにAdobe Readerをインストールしてから、以下の操作を行ってください。

1 パソコンに「カメラ使用説明書」のCD-ROMを入れる



(D:)
CANON

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、[(マイ コンピューター)] 内に表示されるアイコン、Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコンをダブルクリックします。
- 表示されるアイコンはパソコンの環境によって異なります。



START.pdf

3 「START」のファイルをダブルクリックする

- 表示されるアイコンはパソコンの環境によって異なります。

4 言語名をクリックする

5 使用説明書名をクリックする

→ 使用説明書が表示されます。

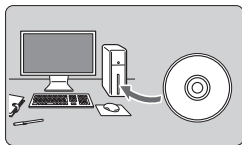


- PDFファイルはパソコンに保存することができます。
- Adobe Readerの使い方については、Adobe Readerのヘルプなどを参照してください。

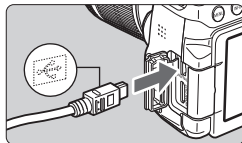
パソコンに画像を取り込む

EOS用ソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

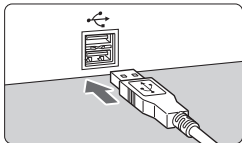


1 ソフトウェアをインストールする (p.195)



2 付属のインターフェースケーブルで、カメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈→〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。



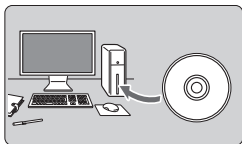
3 EOS Utilityを使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書 (p.196) を参照してください。

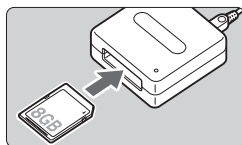
ⓘ [Wi-Fi/NFC] が [使う] に設定されているときは、パソコンとの接続ができません。[Wi-Fi/NFC] を [使わない] に設定してから、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し直してください。

カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込むことができます。



1 ソフトウェアをインストールする (p.195)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書 (p.196) を参照してください。



EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

ソフトウェアの概要



イオス デジタル ソリューション ディスク EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアは、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されています。

イオス ユーティリティ EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーすることができます。

* カメラでビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

デジタル フォト プロフェッショナル Digital Photo Professional

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像、JPEG画像の閲覧・編集・印刷などができます。

* OSが64bit版のパソコンにインストールされるバージョンと、32bit版のパソコンにインストールされるバージョンでは、一部機能が異なります。

ピクチャー スタイル エディター Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

ソフトウェアのインストール

- ❶
- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
 - 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、[setup] をダブルクリックしてください。

2 「おまかせインストール」をクリックし、画面の指示に従って操作する

3 インストールが完了したら、CD-ROMを取り出す

ソフトウェアの使用説明書



ソフトウェア使用説明書は、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されています。ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のコピー方法と見かたは、下記のとおりです。

1 パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れる

2 インストール画面を閉じる

- EOS DIGITAL Solution Diskのインストール画面が表示されたときは、インストール画面を閉じます。

3 CD-ROMを開く

4 [Manual] フォルダを開く

5 [Japanese] フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx

6 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader（最新版推奨）がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
 - Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
 - Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
 - SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
 - HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
 - DCF*は、(社) 電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、(社) 電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
 - その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。
- * DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Canon

EOS *Kiss*
X8i

EOS Kiss X8i (W)

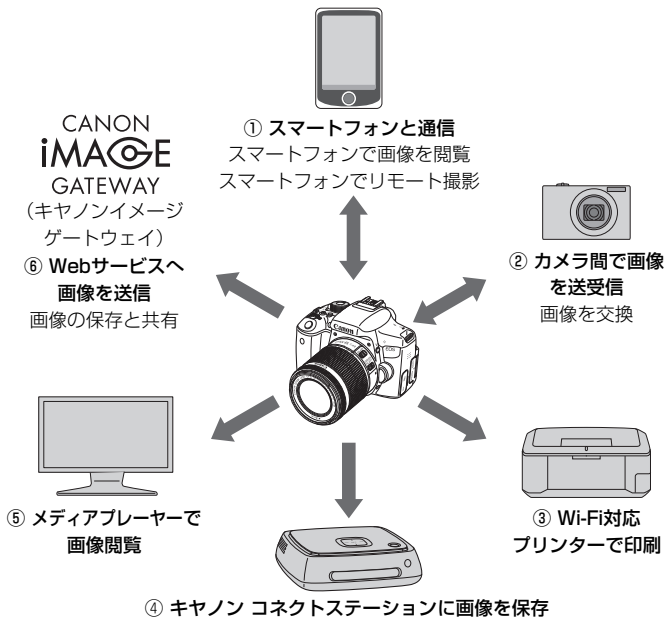
Wi-Fi/NFC機能 使用説明書（基本編）

Wi-Fi/NFC機能 使用説明書（基本編）では、簡単に使うことができる
「スマートフォンと通信」、「カメラ間で画像を送受信」、「コネク
ステーションに画像を保存」の基本的な使い方を説明しています。

はじめに

無線LAN できること

Wi-Fi®(ワイファイ)や、このカメラの無線LAN機能と互換性のある製品と無線で接続し、画像の送受信やカメラの操作などを行うことができます。



* ③、⑤、⑥の使い方、および①をアクセスポイント経由で接続するときは、CD-ROMの「Wi-Fi/NFC機能 使用説明書」PDFを参照してください。

- CANON iMAGE GATEWAYのWebサービスは、国/地域によっては対応していない場合があります。対応している国/地域の情報は、キヤノンのWebサイト (<http://www.canon.com/cig>) でご確認ください。
- 国/地域によっては「Webサービスへ画像を送信」の設定が、パソコンからできない場合があります。

① **スマートフォンと通信** (p.W-17)

Wi-Fi機能を持つスマートフォンやタブレットで、カメラ内の画像を見たり、カメラの操作を行うことができます。専用アプリケーション「Camera Connect(カメラコネクト)」をインストールして使用します。

なお、本書およびカメラの液晶モニターに表示される画面では、スマートフォンとタブレットをあわせて「スマートフォン」と記載しています。

② **カメラ間で画像を送受信** (p.W-35)

無線LAN機能を内蔵したキヤノン製のカメラ同士で、画像を送受信することができます。

③ **Wi-Fi対応プリンターで印刷** (CD-ROM)

無線LAN で使えるPictBridge (Wireless LAN) に対応したプリンターに接続して、画像を印刷することができます。

④ **コネクトステーションに画像を保存** (p.W-43)

コネクトステーション(別売)に無線LANで接続して、画像を保存することができます。

⑤ **メディアプレーヤーで画像閲覧** (CD-ROM)

カメラにセットされたカード内の画像を、DLNA*対応のメディアプレーヤーを使用して、無線LAN経由でテレビで閲覧することができます。

* Digital Living Network Alliance(デジタル リビング ネットワーク アライアンス)

⑥ **Webサービスへ画像を送信** (CD-ROM)

キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービス CANON iIMAGE GATEWAY (登録無料) を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

NFC機能を使ったかんたん接続

このカメラは、スマートフォンやコネクトステーション(別売)と簡単に接続設定ができる、NFCに対応しています。詳しくは、W-11ページを参照してください。

本使用説明書の表記について

- 本書は、Wi-Fi とキヤノン独自の無線機能を総称して「無線 LAN」と表記しています。
 - 本文中の [] 内の語句は、パソコンなどの画面上に表示されるボタン名や、アイコン名などを示しています。また、カメラのメニューに表示される内容を示しています。
 - 本文中の (p.**) の**は、参照ページを示しています。
 - 本文中の以下のマークの付いた欄は、それぞれ次のような内容について説明しています。
- : 使用する際に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
- : 補足説明や補足事項を記載しています。

商標について

- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED、WPA、WPA2とWi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- UPnPは、UPnP Implementers Corporationの商標です。
- N-Markは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- おサイフケータイは株式会社NTTドコモの登録商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

- 本機を使用するために、誤った無線LAN設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、本機を使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
- Wi-Fi機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

章目次

	はじめに	W-2
1	基本的な操作と設定	W-7
2	ニックネームを登録する	W-13
3	スマートフォンとかんたん接続	W-17
4	カメラ間で画像を送受信	W-35
5	コネクタステーションとかんたん接続	W-43

目次

はじめに	W-2
無線 LAN でできること	W-2
本使用説明書の表記について	W-4
章目次	W-5
目次	W-6
1 基本的な操作と設定	W-7
基本的な操作と設定	W-8
2 ニックネームを登録する	W-13
ニックネームを登録する	W-14
3 スマートフォンとかんたん接続	W-17
事前準備	W-18
NFC 機能を使って接続する	W-20
カメラアクセスポイントモードで接続する	W-23
スマートフォンでカメラを操作する	W-27
再接続する	W-29
NFC 機能を使ったかんたん画像送信	W-31
4 カメラ間で画像を送受信	W-35
接続先を選ぶ	W-36
画像を送信する	W-38
再接続する	W-42
5 コネクトステーションとかんたん接続	W-43
画像を保存する	W-44
無線 LAN (Wi-Fi) について	W-47

1

基本的な操作と設定

この章では、カメラの無線LAN機能を使用するときに必要な基本的な操作と設定について説明しています。

基本的な操作と設定

カメラの無線LAN設定を行うときの基本的な操作について説明します。
以下の手順で操作を行ってください。



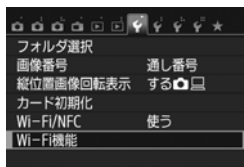
1 [Wi-Fi/NFC] を選ぶ

- [Wi-Fi/NFC] タブの [Wi-Fi/NFC] を選び、〈SET〉を押します。



2 [使う] を選ぶ

- 〈▶〉を押して [使う] を選び、〈SET〉を押します。
- 初めて設定するときはニックネーム（識別用の名称）の登録画面が表示されます。W-14ページを参照してニックネームを登録してください。
- [Wi-Fi 機能] が選択できるようになります。
- [使う] に設定したときは、DIGITAL 端子とHDMI端子の接続がすべて無効になります。また、[Eye-Fi通信] は [しない] に設定されます。



3 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- [Wi-Fi機能] タブの [Wi-Fi機能] を選び、〈SET〉を押します。



4 接続するWi-Fi機能を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押して項目を選びます。
- カメラの無線 LAN 設定はこの画面から行います。これ以降の接続設定は『かんたん接続編』または『高度な接続編』を参照してください。

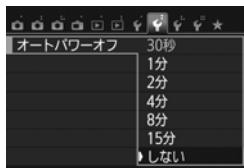
【Wi-Fi/NFC】について

- **【使わない】** 設定時は、[▼1] タブの **【Wi-Fi機能】** を選択することができません。
- NFC機能を使用するときは、**【Wi-Fi/NFC】** で **【使う】** を選び、**【NFCでの接続を許可】** に **【✓】** を付けます。〈INFO.〉ボタンを押すと、**【✓】** のオン/オフが交互に切り換わります。
- 飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**【使わない】** に設定してください。
- **【使う】** 設定時は、カメラとコネクタステーション、パソコン、プリンター、GPSレシーバー、テレビなどを、ケーブルで接続して使用することとはできません (p.W-12)。

無線LAN機能使用中の操作について

無線LAN 機能を優先したいときは、電源スイッチやモードダイヤル、カードスロットカバー、電池室ふたなどを操作しないでください。撮影操作や再生操作を優先して、無線LAN機能が途中で終了することがあります。

オートパワーオフについて

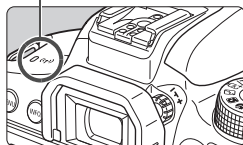


- 必要に応じて [F2] タブの [オートパワーオフ] を [しない] に設定してください。
- 無線 LAN の接続中にカメラのオートパワーオフ機能が働いたときは、接続を終了します。

無線LANの接続状態について

カメラの <W> ランプで、無線LANの接続状態を確認することができます。

<W> ランプ



接続状態	<W> ランプ
接続中	点灯
送信中／受信	速く点滅
接続設定中／再接続待機中	遅く点滅
接続エラー	やや速く点滅

タッチ操作について

無線LANに関する操作も、本機の画面にタッチして行うことができます。

NFC機能でできること

このカメラのNFC機能を使用すると、以下のことができます。

- NFCに対応したスマートフォンをカメラに接するようにタッチすると、簡単に無線LANで接続することができます (p.W-20)。
- カメラで画像を再生しているときに、NFCに対応したスマートフォンをカメラに接するようにタッチすると、撮影した画像をスマートフォンに送信することができます (p.W-31)。
- キヤノン コネクトステーション (別売) にカメラをかざすと、簡単に無線LANで接続することができます (p.W-44)。



このカメラでは、NFC対応のカメラやプリンターなどと、NFC機能を使用して接続することはできません。



NFCとは

NFC (Near Field Communication : 近距離無線通信) は、NFCに対応した機器同士を近づけるだけで、情報のやり取りができる機能です。このカメラではNFC機能を使って、無線LANの接続に関する情報をやり取りしています。



ケーブル接続時の注意事項

- [📶: Wi-Fi/NFC] を [使う] に設定しているときは、インターフェースケーブルやステレオ AV ケーブル、HDMI ケーブルの接続が無効になります。[使わない] に設定してからケーブルを接続してください。
- ケーブルでコネクトステーション、パソコン、プリンター、GPS レシーバー、テレビなどに接続しているときは、[Wi-Fi/NFC] の設定を変更できません。ケーブルを取り外してから設定してください。

カードについて

- カメラにカードが入っていないときは、無線 LAN に接続できません。また、[📷] [🌐] [📺] では、カードに画像が記録されていないときも、無線 LAN に接続できません。

Eye-Fi カードの使用について

- [📶: Wi-Fi/NFC] を [使う] に設定しているときは、Eye-Fi カードでの画像転送はできません。

2

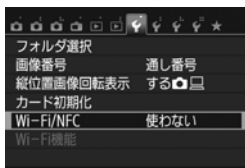
ニックネームを登録する

この章では、カメラのニックネーム（識別用の名称）の付け方について説明しています。

ニックネームを登録する

接続設定の前に、カメラにニックネーム（識別用の名称）を付けます。

このニックネームは、無線LANで他の機器と接続するとき、接続先の機器で表示されます。ニックネームを設定しないと無線LANの設定画面に進めませんので、必ず設定してください。



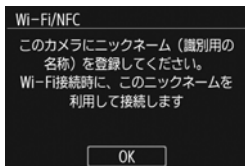
1 [Wi-Fi/NFC] を選ぶ

- [F1] タブの [Wi-Fi/NFC] を選び、〈SET〉を押します。



2 [使う] を選ぶ

- 〈▶〉を押して [使う] を選び、〈SET〉を押します。

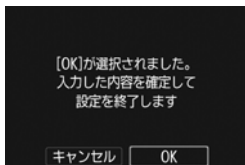


- 初めて設定するときは、ニックネームの登録を促す画面が表示されます。[OK]を選んで手順3に進んでください。



3 ニックネームを入力する

- 入力方法は、次ページの『仮想キーボードの操作方法について』を参照してください。
- 1～14字以内で、好きな文字を入力してください。



4 設定を終了する

- 入力が終わったら〈MENU〉ボタンを押します。
- 確認画面で〔OK〕を選んで〈SET〉を押すと、メニュー画面に戻ります。



ニックネームは、〔共通設定〕画面であとから変更することができます。

仮想キーボードの操作方法について



- **入力エリアの切り換え**
〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。
- **カーソルの移動**
上側のエリアで〈◀〉〈▶〉を押すと、カーソルが移動します。

● 文字の入力

下側のエリアで〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押して文字を選び、〈SET〉を押して文字を入力します。

画面右上の「*/」で、入力した文字数と入力できる文字数を確認することができます。

● 入力モードの切り換え*

下側のエリアの一番右下の「Aa=1@」を選びます。〈SET〉を押すたびに、小文字→数字/記号1→数字/記号2→大文字に切り換わります。

*[タッチ操作:しない] 設定時は、1画面ですべての文字入力ができます。

● 文字の削除

〈⏮〉ボタンを押すと1文字消去されます。

● 入力の終了

〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して終了します。確認画面が表示されたときは、[OK]を選んで終了します。

● 入力のキャンセル

〈INFO〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして終了します。確認画面が表示されたときは、[OK]を選んで終了します。

3

スマートフォンとかんたん接続

スマートフォンと通信して、以下のことができます。

- ・ カメラ内の画像をスマートフォンで閲覧／操作
- ・ カメラ内の画像をスマートフォンで受信
- ・ カメラをスマートフォンで操作して撮影



電源スイッチが〈〉のときはスマートフォンと接続できません。

事前準備

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

スマートフォンと通信を行うには、スマートフォン用の専用アプリケーションCamera Connect（無料）が必要です。

- Camera Connectは、App StoreまたはGoogle Playからダウンロードできます。接続するスマートフォンにCamera Connectをインストールしてから接続操作を行ってください。
- Camera Connectを使うためには、iOSまたはAndroidがインストールされたスマートフォンが必要です。対応OSの情報は、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- NFCに対応したスマートフォンでは、Camera Connectがインストールされていないときに、カメラにスマートフォンをタッチすると、スマートフォンにCamera Connectのダウンロード画面が表示されます。
- Camera Connectの画面表示や機能は、改良やバージョンアップのために変更される可能性があります。そのため、本書に記載している画面例や操作説明と異なる可能性があります。

接続方法について

お使いのスマートフォンが、Androidのときは、NFCに対応しているか確認してください。

- **NFCに対応したスマートフォンの場合：p.W-20を参照してください**
NFC機能を使って簡単に接続設定を行うことができます。
- **NFCに対応していないスマートフォンの場合：p.W-23を参照してください**
カメラアクセスポイントモードで接続設定を行います。

Nマークが付いているスマートフォンはNFCに対応しています。また、一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンもNFCに対応しています。なお、NFCに対応したスマートフォンでも、**N**マークがないものもありますので、お使いのスマートフォンがNFCに対応しているか分からないときは、お使いのスマートフォンのメーカーへお問い合わせください。

NFC機能を使って接続する

NFC機能を使用して、カメラとスマートフォンを接続します。

NFC接続するときの操作の流れは、以下のとおりです。

- ① カメラとスマートフォンの電源を入れる
 - ② カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする
 - ③ カメラとスマートフォンが接するようにタッチする (p.W-21)
- スマートフォンのNFC設定とNFCのアンテナの位置については、スマートフォンの使用説明書を参照してください。
 - カメラのNFC設定は、以下の手順で行ってください。

カメラのNFC設定



1 [Wi-Fi/NFC] を選ぶ

- [Wi-Fi/NFC] タブの [Wi-Fi/NFC] を選び、<SET>を押します。



2 [NFCでの接続を許可] の [✓] を付ける

- [Wi-Fi/NFC] で [使う] を選んでいるときに表示されます。
- <INFO.>ボタンを押すと、[✓]のオン/オフが交互に切り換わります。[✓]を付けた状態で<SET>を押します。
- 初めて設定するときには、ニックネーム（識別用の名称）の登録画面が表示されます (p.W-14)。
- スマートフォンに画像を送信するときは、W-31ページを参照してください。

スマートフォンがNFCに対応していないときは、W-23ページを参照してください。

スマートフォンと接続する



1 カメラにスマートフォンをタッチする

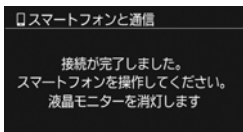
- カメラで画像を再生中のときは、再生を終了してください。
- カメラとスマートフォンの **N** マーク同士が接するようにタッチします。
- **カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら**、カメラからスマートフォンを離してください。
 - ➔ カメラの〈(p)〉ランプが点滅します。
 - ➔ スマートフォンのCamera Connectが起動し、接続を開始します。
 - ➔ 手順2でカメラの操作が完了すると、Camera Connectのメイン画面が表示されます。



Camera Connectで設定しているデバイス名

2 設定を保存する

- 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。なお、接続設定が保存されているときは、この画面は表示されず、液晶モニターは消灯します。
 - ➔ カメラの〈(p)〉ランプが青色に点灯します。
- 〈▶〉を押して [OK] を選び、〈(SET)〉を押します。
 - ➔ メッセージが表示されたあと、カメラの液晶モニターが消灯します。



デバイスの名前は、Camera Connectの設定画面で確認、変更できます。



3 Camera Connectでカメラを操作する

- これ以降の操作はCamera Connectで行います。操作方法については、W-27ページを参照してください。

これでスマートフォンとの通信設定は完了です。

⚠ NFC機能全般に関する注意事項

- カメラにスマートフォンをタッチするときは、カメラやスマートフォンを落とさないように注意してください。
- カメラにスマートフォンを強く当てないでください。カメラやスマートフォンに傷が付くことがあります。
- スマートフォンをかざしただけでは接続できないことがあります。必ず接するようにタッチしてください。
- スマートフォンによっては、認識されにくいことがあります。位置をずらしたり、角度を変えるなどしてゆっくりタッチしてください。
- タッチのしかたによっては、スマートフォンの他のアプリケーションが起動することがあります。Nマークの位置を確認して、再度タッチしてください。
- カメラで撮影中のときや、電源スイッチが〈●●〉のとき、カードが入っていないとき、液晶モニターを内側にして閉じているときは、NFC機能で接続することはできません。
- タッチするときは、カメラとスマートフォンの間にものを置かないでください。また、カメラやスマートフォンにケースなどをつけていると、NFC機能で接続できないことがあります。
- バッテリーグリップBG-E18（別売）を取り付けているときは、NFC機能で接続することはできません。

- 2台以上のスマートフォンと同時に接続することはできません。
- NFC機能で接続した設定は、初期設定では[SET4(NFC)]の名称で、4番目の設定（NFC接続専用の設定）として保存されます。また、違うスマートフォンとNFC接続したときは、[SET4(NFC)]が上書きされます。
- カメラの電源がオートパワーオフ状態でも接続することができますが、接続できないときは、オートパワーオフを解除してから接続を行ってください。

カメラアクセスポイントモードで接続する ■

NFCに対応していないスマートフォンは、カメラアクセスポイントモードで接続することができます。

なお、接続するためにはスマートフォンの操作が必要です。詳しくは、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

カメラ側の操作-1



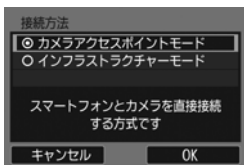
1 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- [F1] タブの [Wi-Fi/NFC] を [使う] に設定したあとで、[Wi-Fi機能] を選びます。



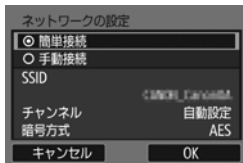
2 [☐] を選ぶ

- [☐] (スマートフォンと通信) を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カメラの 〈P〉ランプが点滅します。



3 [カメラアクセスポイントモード] を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して [カメラアクセスポイントモード] を選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選んで 〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。

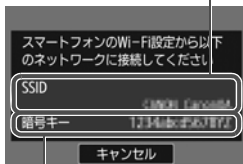


4 【簡単接続】を選ぶ

- <▲> <▼> を押して【簡単接続】を選び、<SET> を押します。
- [OK] を選んで <SET> を押すと、次の画面に進みます。

スマートフォン側の操作-1

SSID (ネットワーク名)

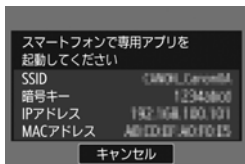


暗号キー (パスワード)

5 スマートフォンを操作してカメラに接続する

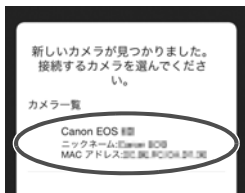
- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、カメラの液晶モニターに表示されているSSID (ネットワーク名) を選びます。
- パスワード欄には、カメラの液晶モニターに表示されている暗号キーを入力します。

カメラアクセスポイントモードで【簡単接続】を選んで接続したときは、カメラのSSIDの末尾に「_CanonOA」が付きます。



6 スマートフォンのCamera Connectを起動する

- スマートフォンのWi-Fi設定が完了したら、Camera Connectを起動します。



7 スマートフォンで接続するカメラを選ぶ

- Camera Connectの「カメラ一覧」から、接続するカメラを選んでタッチすると接続を開始します。
- ➡ 次ページの手順8でカメラの操作が完了すると、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

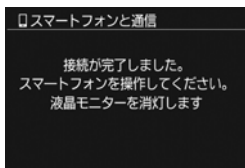
カメラ側の操作-2



Camera Connectで設定しているデバイスの名前

8 カメラを接続する

- 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。
- 〈▶〉を押して [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➔ カメラの 〈P〉ランプが青色に点灯します。



- ➔ メッセージが表示されたあと、カメラの液晶モニターが消灯します。

スマートフォン側の操作-2



9 Camera Connectでカメラを操作する

- これ以降の操作はCamera Connectで行います。操作方法については、W-27ページを参照してください。

これでスマートフォンとの通信設定は完了です。

スマートフォンでカメラを操作する

スマートフォンにインストールしたCamera Connectを使用して、カメラ内の画像を閲覧したり、リモート撮影などを行うことができます。

Camera Connectのメイン画面



Camera Connectでは、主に下記の操作を行うことができます。操作方法は、Camera Connectの画面に触れながら覚えてください。

【カメラ内の画像一覧】

- カメラ内の画像を閲覧することができます。
- スマートフォンにカメラ内の画像を保存することができます。
- カメラ内の画像に対し、削除などの操作を行うことができます。

【リモート撮影】

- カメラのライブビュー映像を、スマートフォンで見ることができます。
- 遠隔操作で撮影することができます。

【カメラ設定】

- カメラの設定を変更することができます。

⚙️ (設定ボタン)

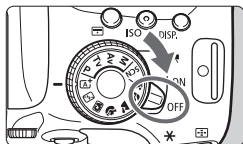
- Camera Connectの各種設定を行うことができます。

接続を終了する



接続を終了するときは、下記のいずれかの操作を行ってください。

- Camera Connect画面の[]をタッチする
- カメラの電源を〈OFF〉にする



- 接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、リリースのタイミングが遅れることがあります。

- 電源スイッチを〈〉にしたときや、モードダイヤルを回したとき、カードスロットカバーや電池室ふたを開けたときも、接続を終了します。
- RAW画像をスマートフォンに保存するときは、JPEG画像が保存されます。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。
- 接続中は、スマートフォンの節電機能をOFFにしておくことをおすすめします。
- スマートフォンにカメラ内の画像を保存しているときは、カメラの〈〉ランプが速く点滅します。

再接続する

接続設定を登録したスマートフォンに再度接続します。



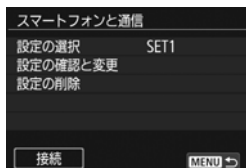
1 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- [F1] タブの [Wi-Fi/NFC] を [使う] に設定したあとで、[Wi-Fi機能] を選びます。



2 [☐] を選ぶ

- [☐] (スマートフォンと通信) を選び、〈SET〉を押します。



3 接続する

- [接続] を選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選びます。
- 接続先の設定が複数登録されているときは、[設定の選択] を選び、接続先を選んでから接続します。

4 スマートフォンのWi-Fi機能をONにする

- 接続先が変更されているときは、カメラに接続するように設定し直してください。

5 スマートフォンでCamera Connectを起動する

- 接続します。



- 再接続時に、カメラのSSIDが分からないときは、手順3で「設定の確認と変更」を選ぶと確認することができます。
- NFC接続のときやカメラアクセスポイントモードで「簡単接続」を選んで接続したときは、カメラのSSIDの末尾に「_Canon0A」が付きます。

NFC機能を使ったかんたん画像送信

カメラで画像を再生しているときに、NFCに対応したスマートフォンをカメラにタッチすると、撮影した画像をスマートフォンに送信することができます。

- すでに無線LANで接続しているときは、接続を解除してからカメラで画像を再生してください。
- あらかじめ、カメラとスマートフォンでNFC機能が使えるように設定しておいてください (p.W-20)。

1枚ずつ送信する



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して、1枚表示で画像を再生します。



2 カメラにスマートフォンをタッチする

- カメラとスマートフォンの **N** マーク同士が接するようにタッチします。
- カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら、スマートフォンを離してください。
- ➔カメラの〈(p)〉ランプが青色に点灯します。



3 送信する画像を選ぶ

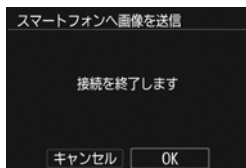
- 〈◀〉〈▶〉を押して送信する画像を選びます。



4 〈SET〉を押す

5 【この画像を送信】を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して【この画像を送信】を選び、〈SET〉を押します。
- 【選んで送信】を選んだときは、W-33ページの手順2の画面が表示されます。
- 表示している画像が送信されます。
- 送信が終了すると、手順3の画面に戻ります。画像を選んで〈SET〉を押すと、続けて送信することができます (p.W-34)。



6 接続を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、確認画面が表示されます。〈▶〉を押して【OK】を選び、〈SET〉を押して接続を終了します。

複数の画像を送信する

W-31ページの手順1でインデックス表示にしているときは、接続したときに、カメラの液晶モニターに画像の選択画面が表示されます。



1 カメラとスマートフォンを接続する

- インデックス表示で画像を再生します。
 - W-31ページの手順2を参照して、カメラにスマートフォンをタッチして接続します。
- ➔ 画像の選択画面が表示されます。



2 送信する画像を選ぶ

- <◀> <▶> を押して送信する画像を選び、[✓] を付けます。<SET> を押すと、[✓] のオン/オフが交互に切り換わります。
- <Q> ボタンを押すと、1枚表示にして選ぶことができます。

3 画像を送信する

- 送信する画像の選択が終わったら、<Q> ボタンを押して送信します。

続けて送信する

送信の完了画面で〈SET〉を押すと、続けて画像を送信することができます。



- **「選んで送信」**
画像の選択画面で、送信する画像を選ぶことができます。
- **「この画像を送信」**
表示している画像を送信します。あらかじめ、送信する画像を表示しておきます。

- !**
- 必要に応じて、『NFC 機能全般に関する注意事項』（p.W-22）もお読みください。
 - 接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
 - 他の機器と無線LAN接続中は、NFC機能を使って画像を送信することができません。また、一度に複数のスマートフォンと接続することもできません。

- 📷**
- 画像の送信中に**「キャンセル」**を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
 - S2 より大きいサイズの画像は、S2 にリサイズして送信されます。S2、S3 の画像は、リサイズしないで送信されます。
 - 接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
 - NFC機能を使ったかんたん画像送信の設定は、カメラに保存されません。
 - 送信中は、カメラの〈P〉ランプが速く点滅します。

4

カメラ間で画像を送受信

無線LAN機能を内蔵したキヤノン製のカメラ同士で、画像を送受信することができます。



- 無線接続できるのは、2012年以降に発売されたキヤノン製の無線LAN機能内蔵カメラです。なお、キヤノン製の無線LAN機能内蔵ビデオカメラとは接続できません。
- Eye-Fiカードに対応していても、無線LAN機能を内蔵していないキヤノン製カメラとは接続できません。
- 静止画はJPEG画像のみ送受信できます。
- 動画は、受信するカメラの仕様によって、送信エラーになる場合や、送信できても再生できない場合があります（MP4形式の動画再生に対応していないカメラには送信できません）。

接続先を選ぶ

無線LANで接続する相手のカメラを登録します。なお、一度に接続できるカメラは1台だけです。



1 【Wi-Fi機能】を選ぶ

- [Wi-Fi/NFC] タブの [Wi-Fi/NFC] を [使う] に設定したあとで、[Wi-Fi機能] を選びます。



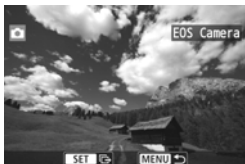
2 【カメラ】を選ぶ

- [カメラ] (カメラ間で画像を送受信) を選び、<SET>を押します。
→ カメラの <Wi-Fi> ランプが点滅します。



3 接続先のカメラを設定する

- 左の画面が表示されたら、接続先のカメラでも接続の設定を行います。操作方法については、接続先のカメラの使用説明書を参照してください。
→ 接続が完了すると、設定を保存したあとで、カード内の画像が表示されます。
→ カメラの <Wi-Fi> ランプが青色に点灯します。



4 送信する画像を選ぶ

- 送信する側のカメラで画像を選びます (p.W-38)。
- 受信する側のカメラでは、何も操作をしないでください。



受信した画像にGPS情報が付加されていても、カメラの再生画面でGPS情報は表示されません。なお、EOS用ソフトウェアのMap Utility（マップユーティリティー）を使用すると、パソコンの地図上に撮影場所を表示できます。

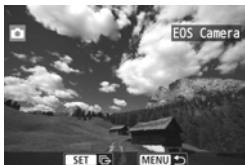


- 接続したときの設定は、接続したカメラのニックネームで保存・登録されます。
- 接続中は、オートパワーオフ機能は働きません。

画像を送信する

1枚ずつ送信する

画像を選んで1枚ずつ送信します。



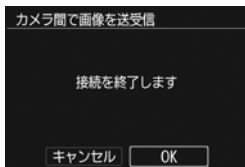
1 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈📷・Q〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を送信] を選ぶ

- [画像サイズ縮小] を選んで 〈SET〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
 - 〈◀〉〈▶〉を押して [この画像を送信] を選び、〈SET〉を押します。
- ➔ 送信状態を示す画面が表示され、送信が終了すると手順1の画面に戻ります。
- 続けて送信するときは、手順1、2を繰り返します。

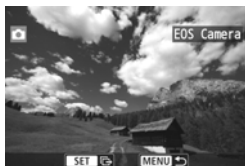


3 接続を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、確認画面が表示されます。〈▶〉を押して [OK] を選び、〈SET〉を押して接続を終了します。
- ➔ [Wi-Fi機能] 画面に戻ります。

複数の画像を送信する

複数の画像を選んで一度に送信します。



1 〈SET〉を押す



2 [選んで送信] を選ぶ

- [画像サイズ縮小] を選んで 〈SET〉 を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
- 〈◀〉 〈▶〉 を押して [選んで送信] を選び、〈SET〉 を押します。



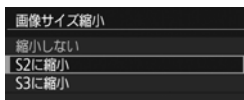
3 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 を押して送信する画像を選び、[✓] を付けます。〈SET〉 を押すと、[✓] のオン／オフが交互に切り換わります。
- 〈Q〉 ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈Q〉 ボタンを押します。



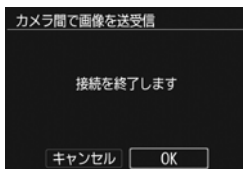
4 画像サイズを縮小する

- 必要に応じて設定します。
- 表示される画面で〈▲〉〈▼〉を押して画像サイズを選び、〈SET〉を押します。



5 画像を送信する

- 〈▲〉〈▼〉を押して「送信」を選び、〈SET〉を押して送信します。
- 送信状態を示す画面が表示され、送信が終了すると手順1の画面に戻ります。
- 続けて送信するときは、手順1～5を繰り返します。



6 接続を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、確認画面が表示されます。〈▶〉を押して「OK」を選び、〈SET〉を押して接続を終了します。
- 「Wi-Fi機能」画面に戻ります。



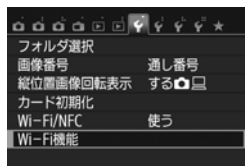
- 接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。接続を解除して撮影などを行いたいときは、〈MENU〉ボタンを押して、表示される画面で接続を終了してください。なお、画像の送受信中に接続を解除するときは、カメラで〔キャンセル〕を選んだあと、接続を解除してください。
- 送信する枚数が多いときやファイルサイズ（合計容量）が大きいときは、電池の残量にご注意ください。
- 送信するカメラの仕様によっては、動画を送信するときにファイルの変換を行います。そのため、通常よりも送受信に時間がかかることがあります。



- RAW画像は送信できません。
- 一度に50ファイルまで選択できます。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されますが、動画や選択した画像サイズより小さい画像は縮小されません。
- [S2に縮小]、[S3に縮小] が有効になるのは、EOS Kiss X8iで撮影された静止画だけです。それ以外のカメラで撮影された画像は、サイズを縮小せずに送信されます。
- ファイルサイズ（合計容量）は、縮小する前のサイズが表示されます。
- 画像の送受信中に〔キャンセル〕を選ぶと、送受信をキャンセルすることができます。送信側のカメラで〔キャンセル〕を選ぶと、画像の選択画面に戻ります。受信側のカメラで〔キャンセル〕を選ぶと、接続を解除します。
- 送信中や受信中は、カメラの〈P〉ランプが速く点滅します。

再接続する

接続設定を登録したカメラに再度接続します。



1 【Wi-Fi機能】を選ぶ

- [Wi-Fi/NFC] タブの [Wi-Fi/NFC] を [使う] に設定したあとで、[Wi-Fi機能] を選びます。



2 [カメラ] を選ぶ

- [カメラ] (カメラ間で画像を送受信) を選び、<SET>を押します。



3 接続する

- [接続] を選び、<SET>を押します。
 - 確認画面で [OK] を選びます。
 - 接続先のカメラでも再接続の操作を行います。
- カード内の画像が表示され、送信する画像が選択できるようになります。
- 接続先の設定が複数登録されているときは、[設定の選択] を選び、接続先を選んでから接続します。
 - 設定の名称は、初期設定では接続先カメラのニックネームが表示されます。

5

コネクタステーションと かんたん接続

コネクタステーション（別売）は、撮影した静止画や動画を取り込んで、テレビやスマートフォンなどでの閲覧や、ネットワークを利用した静止画や動画の共有などを行う機器です。

このカメラは、コネクタステーションにかざして、コネクタステーションへ簡単に静止画や動画を保存することができます。

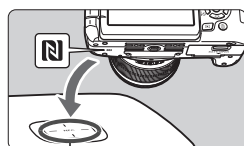
画像を保存する

ここでは、カメラとコネクタステーション（別売）を無線LANで接続する方法を説明します。そのほかの方法で画像を保存するときは、コネクタステーションの使用説明書を参照してください。

- あらかじめ、カメラでNFC機能を使えるように設定しておいてください（p.W-20）。

1 カメラのNFC機能を使えるように設定する（p.W-20）

2 カメラをコネクタステーションにかざす

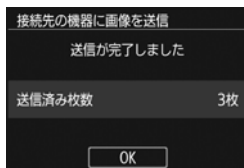


NFC接続ポイント

- カメラとコネクタステーションの電源を入れ、カメラのNマークをコネクタステーションのNFC接続ポイントにかざします。
- カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されます。
- 接続すると、コネクタステーションがカード内の画像を確認し、保存されていない画像だけを保存します。
- カメラの〈〉ランプが青色に点灯します。

3 接続を終了する

- 画像の保存が終了すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。〈SET〉を押して接続を終了します。





- コネクトステーションの上にカメラを落としたり、カメラを強く当てたりしないでください。コネクトステーションの内蔵ハードディスクが損傷する恐れがあります。
- カメラが認識されにくいことがありますので、位置をずらしたり、角度を変えるなどして、ゆっくりかざしてください。
- カメラをかざしても接続できないときは、軽く触れてください。
- カメラで撮影中のときや、電源スイッチが〈●●●〉のとき、カードが入っていないとき、液晶モニターを内側に閉じているときは、NFC機能で接続することはできません。
- かざすときは、カメラとコネクトステーションの間にものを置かないでください。また、カメラにケースなどをつけていると、NFC機能で接続できないことがあります。
- バッテリーグリップBG-E18（別売）を取り付けているときは、NFC機能で接続することはできません。
- 画像の取り込み中に、カメラとコネクトステーションの距離が離れすぎると、取り込みに時間がかかったり、接続が解除されることがあります。
- 取り込み中にカメラが電池切れになったときは、取り込みを中止します。充電してから、もう一度取り込み操作を行ってください。



- カメラの電源がオートパワーオフ状態でも接続することができますが、接続できないときは、オートパワーオフを解除してから接続を行ってください。
- すべての画像が取り込み済みのときは、取り込みは行いません。そのときは、[OK] を選んで接続を終了してください。
- カード内の画像が多いときは、画像の確認や保存に時間がかかることがあります。

[illegible]

無線LAN (Wi-Fi) について

■ 無線LANが使える国や地域について

無線LAN機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、無線LAN機能が使用できる国や地域については、キャノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域で無線LAN機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■ モデルナンバー

EOS Kiss X8i (W) : DS126571 (無線モジュールモデル : CH9-1346)

- ・ 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- ・ 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- ・ EOS Kiss X8i (W) には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。

■ 電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
- ② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。
- ③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。

2.4 DS/OF 4



この表示は、2.4GHz帯を使用している無線機器であることを意味します。

- ・ 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

Complies with
IDA Standards
DB00671

シンガポールIDA 規格の認可済みWLAN Moduleが組み込まれています。

MEMO

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

MEMO

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

MEMO

[illegible]

[illegible]



キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：9：00～18：00

（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

- ※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
- ※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
- ※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos

本書の記載内容は2015年9月現在のもので、それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。



リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。